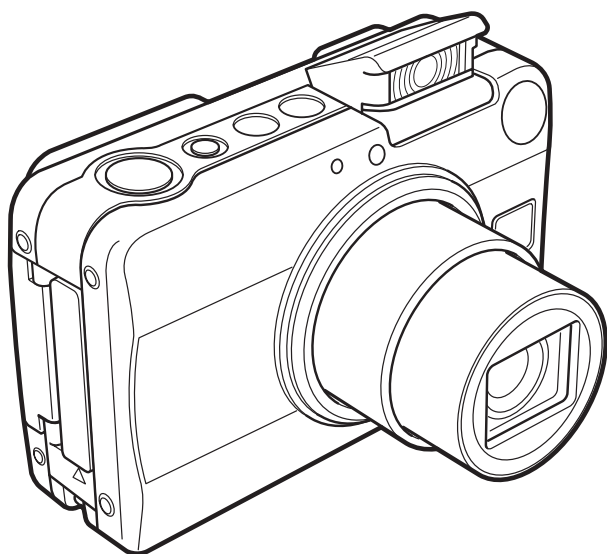
取扱説明書

Finecam S5

5.0 MEGA PIXELS 3.0X OPTICAL ZOOM

Finecam S3L

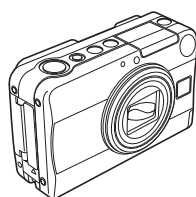
3.2 MEGA PIXELS 3.0X OPTICAL ZOOM

SDメモリーカードまたはマルチメディアカード*をお使いください。
本書では、これらのカードのことを「メモリーカード」と称しております。

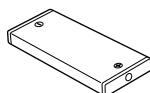
＊MultiMediaCard™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標であり、MMCA（MultiMediaCard Association）へライセンスされています。

はじめに

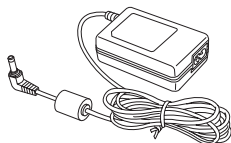
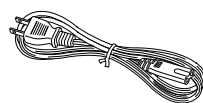
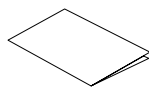
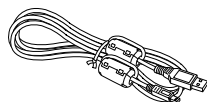
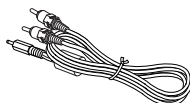
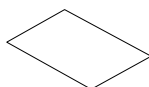
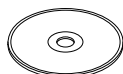
お買い上げありがとうございました。
このFinecam S3L及びFinecam S5は光学3倍ズームレンズを搭載した高性能、高画質のデジタルカメラです。
お取り扱いの際はこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい使いかたで、末永くご愛用ください。

付属品の確認

まず、はじめに付属品の確認をしてください。

デジタルカメラ
Finecam S3L
Finecam S5

メモリーカード
（SDメモリーカード）
→21ページ

バッテリー（カメラに入れて充電して使います）→20ページ

取扱説明書
（本書）

ACアダプター（カメラにつないで充電します）→20ページ

ACアダプターケーブル
→20ページ

クイックスタートガイド

USBケーブル（パソコンとカメラをつなぎます）
→87ページ

ビデオケーブル（カメラとテレビをつなぎます）→84ページ

保証書

CD-ROM
（ドライバソフト）

ハンドストラップ
→14ページ

この取説の使いかた

はじめにではこのカメラや取扱説明書のこと、カメラを扱う上でのご注意などの大切なことが書かれています。

カメラの準備では、カメラをお使いになる前にしていただきたいことが書かれています。

基本の操作では、デジタルカメラの基本である「撮る、見る、消す」の操作が書かれていますので、特に初めてお使いになる方は、こちらをお読みいただいて、デジタルカメラの使いかたを覚えてください。

“📷”カメラモードと“🎥”動画モードの機能を使いこなすでは、ストロボ機能や露出補正など撮影前に設定する機能の使いかたが書かれています。基本の操作をご理解いただいた方やカメラの操作に慣れている方はこちらをお読みください。

“▶”再生モードの機能と使いかたでは、画像を見るための機能と、画像をリサイズしたり、音声を付けたりなど、カメラの操作で簡単な画像の加工ができる機能の使いかたが書かれています。

“SET UP”セットアップモードの機能と使いかたでは、メモリーカードのフォーマットや日付の設定など、使用頻度は少ないが、あると便利な機能や大事な機能の使いかたが書かれています。

その他の操作では、デジタルカメラにパソコンやプリンターをつなぐときの方法やご注意が書かれています。

付録では、カメラの様子がおかしいときの対処表、このカメラの仕様、索引などが書かれています。

●本書ではデジタルカメラのことをカメラと称しております。

※**ご使用の前に**　このカメラは高性能ICを使用した電子機器です。ご使用中にICの放熱によりカメラが熱くなることがあります。故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。

目次

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠ 危険	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う危険性が切迫して想定されることを示します。

⚠ 警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

⚠ 注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上のご注意〉

⚠ 警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。 ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● カメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

⚠ 注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してから使用してください。**

- このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- 撮影レンズ、測光窓などを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼしますので十分注意してください。もし汚れた場合はむやみに拭かず、セーム皮や市販の眼鏡拭き用紙などで軽く拭く程度にしてください。また、ゴミやホコリはブロアーで吹き飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

- 撮影や再生直後など、カードアクセスLEDが点滅しているときは、SDメモリーカードまたはマルチメディアカードを取り出さないでください。
- 強力な電磁波を発生させる場所(テレビやスピーカーのすぐ近くなど)では、画像が乱れて記録されたり、再生画像が乱れることがあります。
- 太陽に直接カメラを向けて撮影しないでください。カメラのCCDを損傷します。
- カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、はずれている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- カード着脱部の内部には触れないでください。故障の原因となります。

〈マイクロコンピューターの保護回路について〉

このカメラは外部の強力な静電気に対して、内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合はカメラの電源をOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、アクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。市販されている他社製品、あるいは自作の製品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

著作権について

あなたが、実演や興行・展示物などを撮影したものは、個人で楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行・展示物などのうちには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ためし撮りと撮影内容の補償について

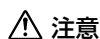
必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一本機や記録媒体(SDメモリーカードまたはマルチメディアカード)の不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みが行われなかった場合の記録内容の補償についてはご容赦ください。

- テレビは、ビデオ入力端子のあるタイプをご使用ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 航空機の機内や病院など、使用を禁止された場所ではカメラの電源をOFFにしてください。電子機器などに影響を与え事故の原因となります。

〈カメラの保管について〉

- カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

- 熱い場所(夏の海辺、直射日光下の車内など)に長時間置いておくとカメラやSDメモリーカードまたはマルチメディアカード、電池等の性能を低下させ、故障の原因となりますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

〈表示パネルと液晶モニターについて〉

⚠ 注意	● 液晶モニターの画面を強くこすったり、強く押したりすると故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミなどが付着した場合は、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム皮などで軽く拭き取ってください。 ● 万一液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをする恐れがありますので十分ご注意ください。 ● 液晶モニターの破損により中の液晶が皮膚に付着した場合、すみやかに付着物を拭き取り、水で流し、石鹸でよく洗浄してください。また目に入った場合、きれいな水で最低15分間洗浄した後、すみやかに医師の診断を受けてください。

● 液晶モニターの特性上、一部の画素で常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また記録される画像には何ら影響ありません。
● 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくくなる場合があります。

〈リチウムイオンバッテリーパック・使用上のご注意〉

⚠ 危険	● 高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 電池の（＋）（－）端子を金属物などでショートさせないでください。発熱、発煙、発火の原因になります。 ● カギ、ネックレス、コインなどの金属物と一緒に保管はしないでください。金属片などと端子が接触してショートする恐れがあります。 ● 火の中に投入したり、加熱しないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 分解や改造はしないでください。発熱、発煙、発火や電池内の液が目に入り失明などの事故の原因になります。万一、電池の液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い流してただちに医師の治療を受けてください。 ● このバッテリーパックは本機専用です。充電の際は必ずカメラまたは専用充電器に装てんして充電してください。バッテリーパックを本機以外に使用したり、指定外の市販の充電器等で充電すると、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。

⚠ 警告	● 電子レンジや高圧容器に入れないでください。液漏れ、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 液漏れした電池を使用しないでください。電池内の液が人体に付着すると傷害を起こす恐れがあります。万一、付着したらすぐにきれいな水で洗い流してください。 ● 破損した電池を使用しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。

⚠ 注意	● 水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたりしないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 濡れた電池を使用・充電しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 幼児の手の届く場所には置かないでください。けがなどの事故の原因になります。 ● 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。液漏れの原因になります。 ● できるだけ、常温（20℃±5℃）でご使用ください。夏期や冬期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では、電池の容量が低下し使用できる時間が短くなります。また、電池の寿命も短くなります。 ● 電池を使用しない場合には、湿気の少ない場所に保管してください。

リチウムイオンバッテリーパック
使用後はリサイクルへ

〈充電器および AC アダプター・使用上のご注意〉

⚠ 警告	● プラグの抜き差しが不完全な状態で使わないでください。接触不良により発熱し、火災や感電の原因になります。 ● コードを加工したり無理な力を加えたりしないでください。コードが傷つき火災や感電の原因になります。芯線が露出するほど痛んだ場合は使用を中止し、ご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。 ● カバーをはずしたり、分解、修理、改造しないでください。感電する危険があります。 ● プラグにほこりがついた状態で使用したり、金属を近づけたりしないでください。電気が金属を伝わり、火災や感電の原因になります。ほこりがたまったときは、プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除いてください。 ● 煙や異臭、異音がでたり、落下、破損したときは使用を中止してください。そのまま使用すると火災の原因になります。そのような場合は、ご購入店か当社サービスステーションにご相談ください。 ● ACアダプターは家庭用電源コンセント（AC100～240V、50/60Hz）以外にはつながないでください。指定外の電圧や電源で使用すると火災や感電の原因になります。

⚠ 注意	● 充電器およびACアダプターは必ず専用品をご使用ください。指定外の充電器やACアダプターを使用すると思わぬ事故や火災の原因になることがありますのでご注意ください。 ● コードを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足すなどは絶対にしないでください。 ● 濡れた手で充電器やACアダプターを抜き差ししないでください。感電する恐れがあります。 ● コンセントからの抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり断線したり火災や感電の原因になることがあります。 ● 充電器およびACアダプターの傷、断線、プラグの接触不良などにお気づきのときは使用を中止して早めにご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。

● ACアダプターは長時間使用すると若干熱を持ちますが、故障ではありません。
● 長時間使用しないときは安全のため先にカメラ側のプラグをカメラ本体から抜き、その後コンセント側のプラグを抜いてください。
● カメラに電池をセットした状態でACアダプターを使う場合、カメラの電源をOFFにしてACアダプターの抜き差しを行ってください。
● このACアダプターは、本機専用です。火災や感電の危険防止のため、指定されたデジタルカメラ以外には使用しないでください。

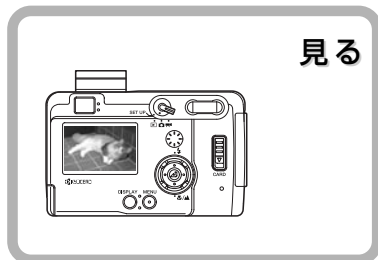
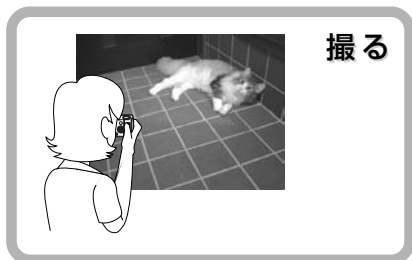
＊SDロゴは商標です。
＊MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
＊MacintoshおよびMac OS、QuickTime™およびQuickTimeロゴは、Apple Computer, Inc.の登録商標です。
＊PRINT Image MatchingおよびPRINT Image Matching II に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。
＊全ての会社名、ブランド名または商品名は、それらの所有者の登録商標または商標です。

PRINT Image Matching

＊本製品はPRINT Image Matching II に対応しています。PRINT Image Matching II 対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

このカメラでできること →カメラ自身／カメラ周辺（システムマップ）

撮る

見る

パソコンにつなぐ

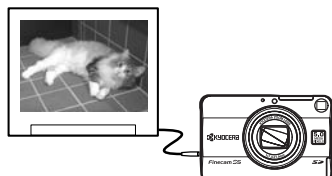
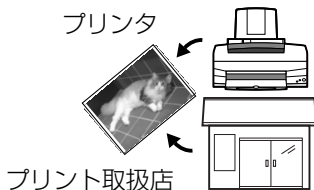
ハードディスクやCD-Rに保存する
壁紙にする

レタッチソフトで加工する

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンをつないでください。OSによっては、USBドライバのインストールが必要です。この場合はUSBドライバをインストールしてからカメラとパソコンをつないでください。手順を間違えるとUSBドライバが正しくインストールできません。詳しくは85ページをご覧ください。

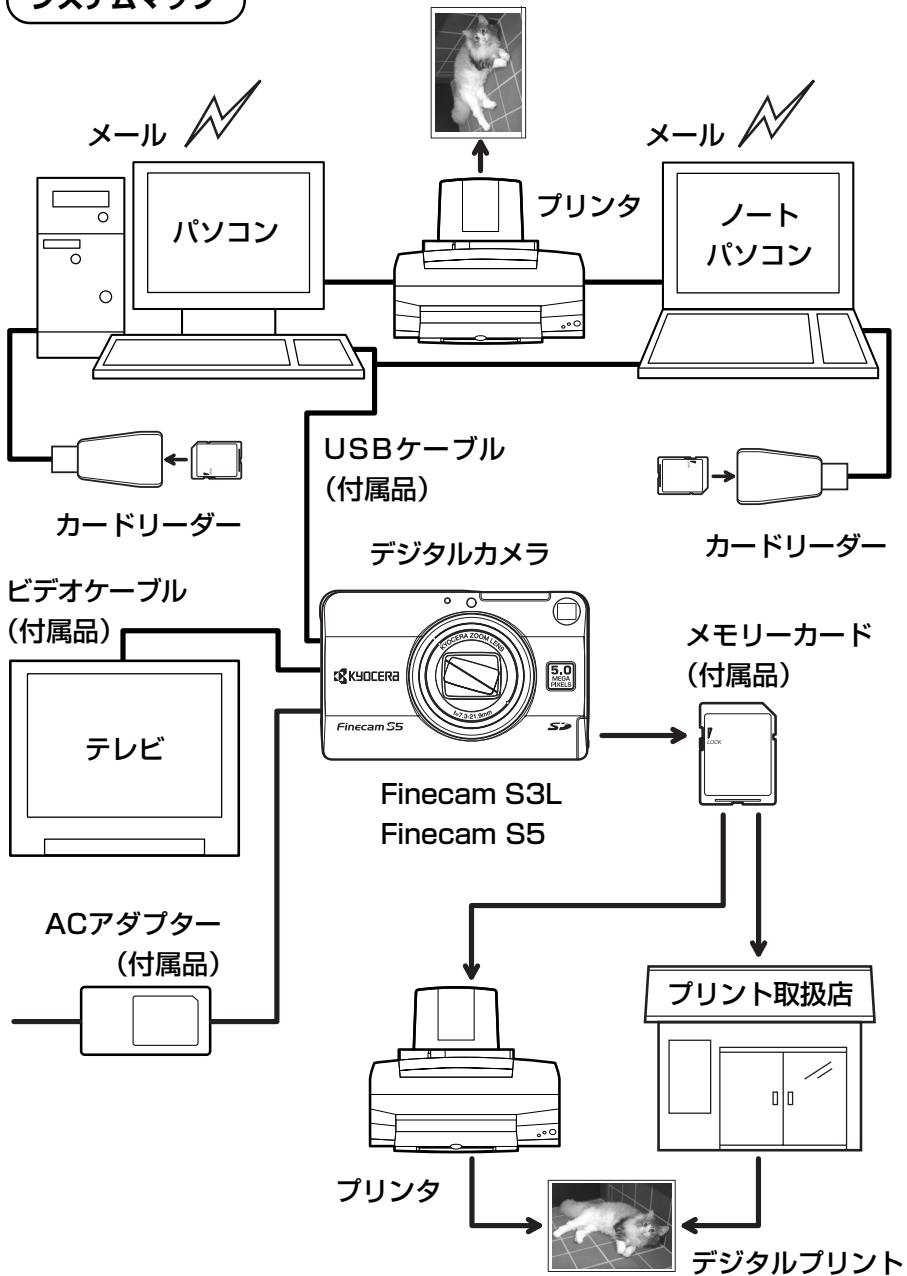
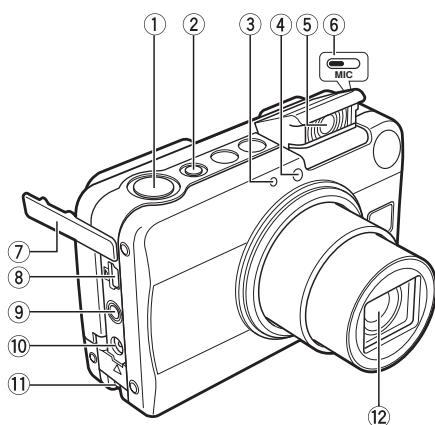
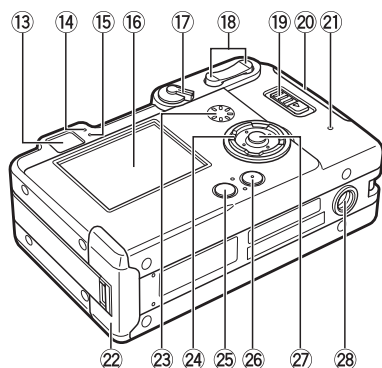
テレビでみる

デジタルプリントする

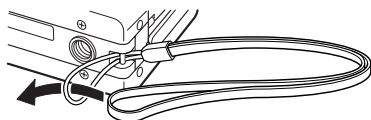
プリンタ

プリント取扱店

※従来の写真と同様にデジタルプリントはプリント取扱店で出来ます。サービス内容についての詳しくは、お店にお問合せください。

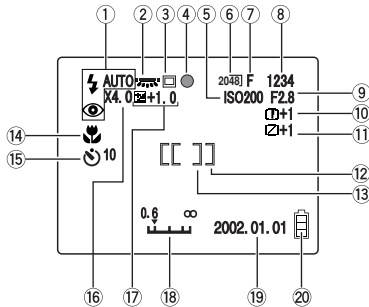
システムマップ

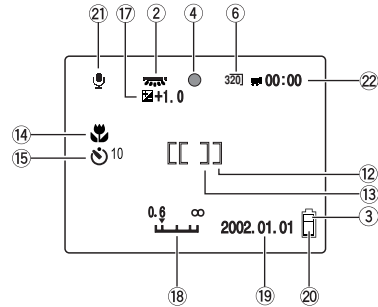
メール
メール
プリンタ
パソコン
ノート
パソコン
USBケーブル
（付属品）
カードリーダー
カードリーダー
デジタルカメラ
ビデオケーブル
（付属品）
メモリーカード
（付属品）
テレビ
Finecam S3L
Finecam S5
ACアダプター
（付属品）
プリント取扱店
プリンタ
デジタルプリント

各部の名称 →ボタンやレバーなどの呼び名をご紹介

① シャッターボタン →25ページ
② "POWER"パワーボタン →22ページ
③ セルフタイマーLED(赤) →18ページ
④ 測光窓
⑤ ストロボ発光部 →32ページ
⑥ マイク →62ページ
⑦ 端子カバー
⑧ USB端子 →87ページ
⑨ ビデオ出力端子 →84ページ
⑩ 電源入力端子 →20ページ
⑪ ストラップ取り付け部
⑫ レンズ/レンズバリア

⑬ ファインダー →30ページ
⑭ 警告LED(赤) →19ページ
⑮ スタンバイLED(緑) →19ページ
⑯ 液晶モニター →15ページ
⑰ モード切替レバー →22ページ
⑱ ズームボタン ([W] ワイドボタン、[T]テレボタン) →30ページ
⑲ カードカバー開放レバー →21ページ
⑳ カードカバー →21ページ
㉑ カードアクセスLED(橙) →18ページ
㉒ バッテリーカバー →20ページ
㉓ スピーカー
㉔ 十字ボタン:上下左右の十字方向に押せます。→23ページ
㉕ ディスプレイボタン →56ページ
㉖ メニューボタン →26ページ
㉗ 決定ボタン →23ページ
㉘ 三脚取り付け穴

☆ハンドストラップの取り付けかた

図のように取り付けて下さい。

液晶モニターの表示とアイコンの名前

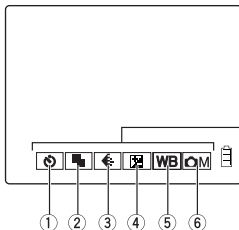
カメラモードと動画モードの表示

<カメラモード>

<動画モード>

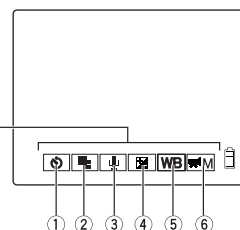
① ストロボモード →33ページ
② ホワイトバランス／カラーモード
　→42ページ／45ページ
③ 測光モード →54ページ
④ 合焦マーク（ピントが合うと点灯）
⑤ ISO感度 →53ページ
⑥ 画素数 →38ページ
⑦ 画質 →39ページ
⑧ 撮影可能枚数
⑨ AEモード（絞り値）→49ページ
⑩ シャープネス →47ページ
⑪ 彩度 →46ページ

フォーカスフレーム →50ページ
　⑫ ワイドAF　⑬ スポットAF
⑭ マクロ／遠景モード →35ページ
⑮ セルフタイマー →37ページ
⑯ 電子ズーム／長時間露光 →52ページ
⑰ 露出補正 →41ページ
⑱ フォーカスゲージ（フォーカスでMF設定時）
　→50ページ
⑲ 日付（電源ON後、約3秒だけ表示します）
⑳ バッテリー残量表示
㉑ 音声モード →43ページ
㉒ 撮影可能な残りの総秒数

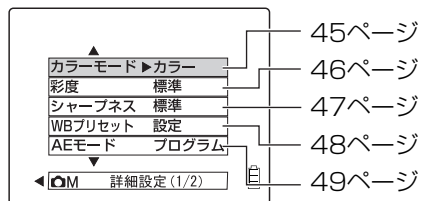
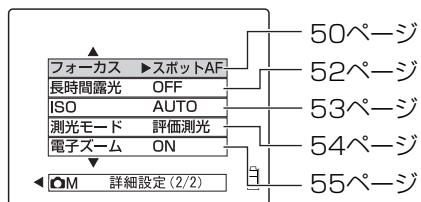
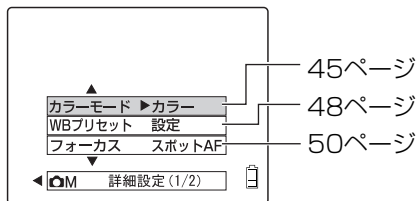
MENU
(◦)メニューボタンを押したときの表示

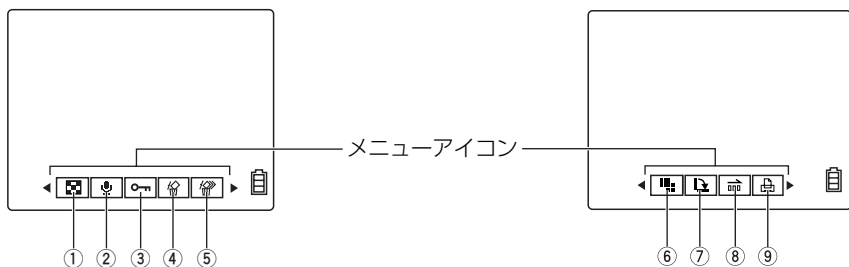
メニューアイコンが表示されます。

<カメラモード>　　<動画モード>

<カメラモード>

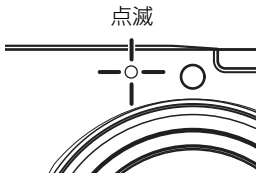
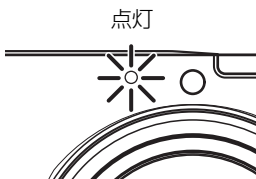
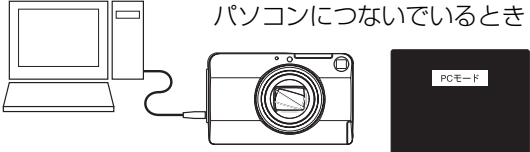
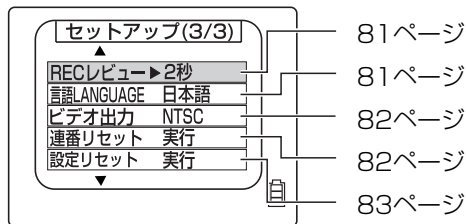
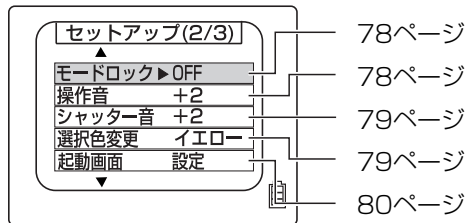
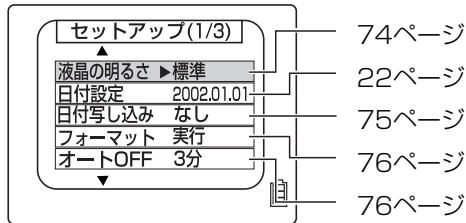
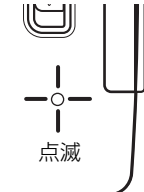
① セルフタイマー →37ページ
② 画素数 →38ページ
③ 画質 →39ページ
④ 露出補正 →41ページ
⑤ ホワイトバランス →42ページ
⑥ 詳細設定 →44ページ

<動画モード>

① セルフタイマー →37ページ
② 画素数 →38ページ
③ 音声 →43ページ
④ 露出補正 →41ページ
⑤ ホワイトバランス →42ページ
⑥ 詳細設定 →44ページ

メニューアイコンの[M]、[M]詳細設定を選んだときの表示

<カメラモード> <動画モード>

再生モードの表示

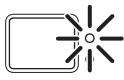
MENU メニューボタンを押したときの表示（メニュー表示）

① マルチ表示 →60ページ
② アフレコ →62ページ
③ プロテクト →64ページ
④ 消去 →64ページ
⑤ 全消去 →65ページ

⑥ リサイズ →66ページ
⑦ 回転 →68ページ
⑧ スライド →69ページ
⑨ プリント →70ページ

セットアップモードの表示

メニューが表示されます。

LEDの表示

このカメラには4つのLEDが付いています。これらの光りかたによりカメラが今どのような状態であるかをお知らせします。

セルフタイマーLED（赤）

点滅	SET UP セルフタイマーが作動しているとき
点灯	SET UP　SET UP 再生モードとSET UP（セットアップ）モードのとき
	SET UP 静止画や動画を撮影しているとき
	パソコンにつないでいるとき PCモード

カードアクセスLED（橙）

画像などのデータをメモリーカードに記録したり、読み込んだりしているときなどメモリーカードにアクセスしているときに点滅します。

●点滅中は、カードカバーを開けたり、メモリーカードの取り出しは絶対に行わないでください。

はじめに

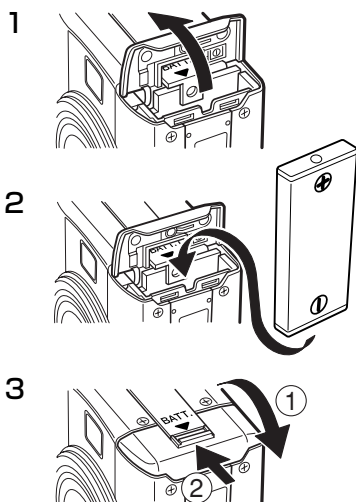
スタンバイLED（緑）

カメラモード 動画モード	点灯	ピントが合いましたので、撮影できます。
	点滅	ピントは合っていませんが、撮影できます。
バッテリーの充電	点灯	バッテリーの充電が終わりました。

警告LED（赤）

カメラモード 動画モード	早い点滅	シャッタースピードが遅くなっていますので、カメラぶれに注意して撮影してください。
	遅い点滅	ストロボを充電していますので、次の撮影は点滅が終わるまでお待ちください。
バッテリーの充電	点灯	充電中です。
	点滅	バッテリー、ACアダプター、カメラのいずれかに異常があると考えられます。

カメラの準備

1. 電池を入れる

1 **バッテリーカバーを開けます。**

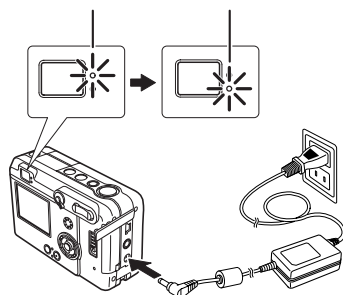
バッテリーカバーを下にスライドしてから開きます。

2 **付属品のリチウムイオンバッテリーパックを入れます。**

＋と－の向きにご注意ください。

3 **バッテリーカバーを閉めます。**

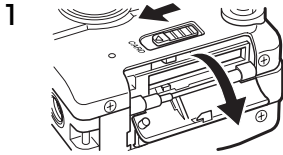
①カードカバーを閉じます。
②スライドしてロックします。

2. 充電する

ACアダプターをカメラにつないで充電します。

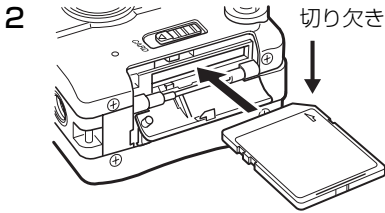
充電時間は約5時間です。
電源はOFFにしておいてください。
充電中は警告LED（赤）が点灯しています。充電が終わると警告LEDが消え、スタンバイLED（緑）が点灯します。

準備

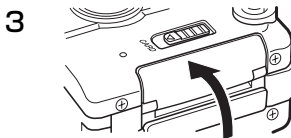
3. メモリーカードを入れる

1

カードカバーを開けます。

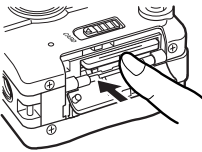
カードカバー開放レバーをスライドさせるとカードカバーが開きます。

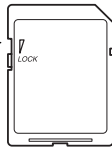
2

メモリーカードを入れます。

メモリーカードはラベル面を上にして差し込みます。
差し込むときは、「カチッ」と音がして止まるところまで差し込んでください。

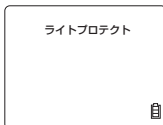
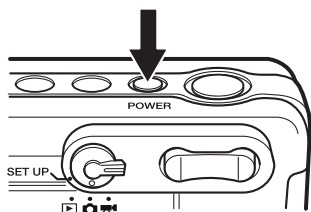
3

カードカバーを閉めます。

● メモリーカードにシールなどを貼らないでください。取り出せなくなることがあります。

☆メモリーカードを取り出すときは

メモリーカードを軽く一回押すと少し飛び出しますので、それを指でつまんで取り出してください。

☆ライトプロテクト（書込禁止）スイッチ ※SDメモリーカードのみ

SDメモリーカードにはライトプロテクトスイッチがついています。
このスイッチを下にスライドするとカードへのデータ書込が禁止され、カードに保存されている画像などのデータが保護されます。

ライトプロテクト

なお、この状態のカードを使って撮影や消去などはできません。
液晶モニターには“ライトプロテクト”と表示されます。

4. 電源を入れる

“POWER”パワーボタンを押します。

起動画面が現れ、数秒後に撮影モードの通常画面に変わります。

●起動画面にご自分で撮影した画像を設定することができます。→80ページ

☆バッテリー残量表示の見かたと充電の目安

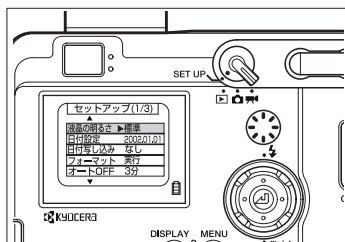
 電池の容量は十分です。

 半分使った状態です。

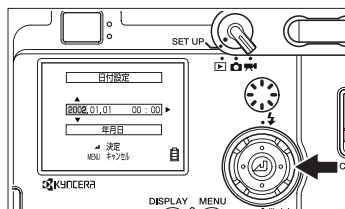
 残り少ない状態です。早めに充電してください。

 カメラは作動しません。充電してください。

5. 日付と時刻を合わせる

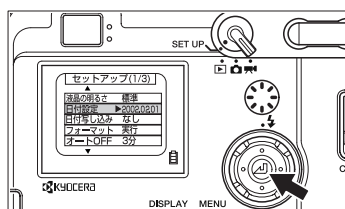
1

モード切替レバーを“SET UP”に合わせます。

セットアップのメニューが現れます。

2

十字ボタンの上下を押して［日付設定］を選び、十字ボタンの右を押します。

十字ボタンの左右を押すと「年⇄月⇄日⇄時⇄分⇄日付の表示形式*」のように項目の移動ができます。

十字ボタンの上下を押すと数値の変更と表示形式の選択ができます。

3

全ての設定が終わったら、決定ボタンを押して、設定完了です。

日付と時刻は必ず設定してください

100KCBOX
- KIF_0001.jpg　2002.8.2
- KIF_0002.jpg　2002.8.2
- KIF_0003.jpg　2002.8.7
- KIF_0004.jpg　2002.8.15
- ⋮

デジタルカメラでは、撮影したときの日付と時刻が画像データと一緒にメモリーカードに保存されます。これにより画像は、パソコンで扱うときに撮影した日付と時刻が情報として残るので、アルバムなどのデータ管理がしやすくなります。

*日付の表示形式とは

並び順	表示例
年月日	2002.07.21
月日年	07.21.2002
日月年	21.07.2002

年、月、日の並び順です。この場合は次の３通りがあります。
お好みの表示形式をお選びください。

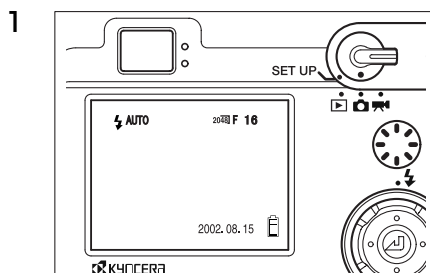
●日付の写し込みは、ここで設定した表示形式で写し込まれます。→ 75 ページ

基本の操作

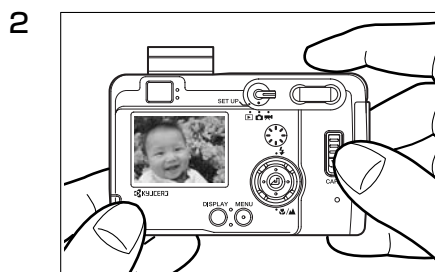
（初めてデジタルカメラをお使いになる方へ）

撮る→見る→いらない画像は消す
これがデジタルカメラの基本操作です。
まずは試し撮りなどをして、このカメラの使いかたを覚えてください。

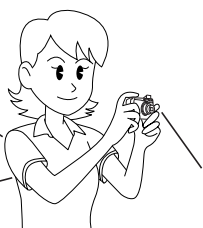
撮影してみましょう（静止画像の撮影）

1

モード切替レバーを“ ”に合わせ、“POWER”パワーボタンを押して、カメラの電源をONにします。

起動画面が現れた後、日付が約3秒程現れます。日付が正しいか確認してください。

2

液晶モニターを見ながら被写体の構図を決めます。

●カメラぶれに注意してください。
→34ページ

☆ 構えかた →24ページ
☆ ファインダーを使った撮影で節電
→30ページ
☆ ズームボタンを使った撮影
→30ページ

“ ”テレボタンと“ ”ワイドボタンを押すと構図の拡大または縮小ができます。

☆構えかた

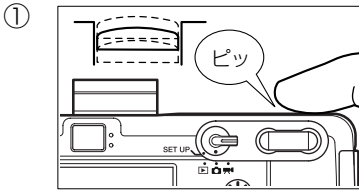
肩の力は抜く

脇を軽く締める

カメラは両手で持つようにしましょう。

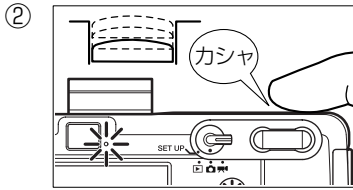
レンズ、ストロボ、測光窓、ファインダーに指がかからないように注意

3 シャッターボタンを押して撮影します。

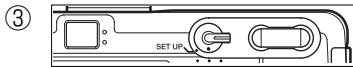
①

シャッターボタンを半押しして露出とピントを合わせます。

「ピッ」と音がして、スタンバイLEDと合焦マークが点灯すると、露出とピント合わせは完了です。（→☆シャッターボタンの半押し）

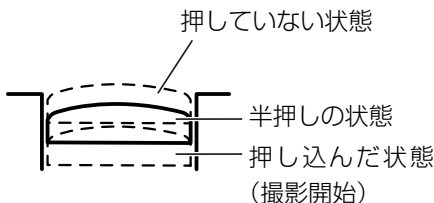
●スタンバイLEDと合焦マークが点滅しているときは、露出とピントが合っていません。（撮影はできます）

②

シャッターボタンをさらに押し込むと、「カシャ」と音がして、撮影開始です。

●撮影中は、スタンバイLEDが点滅します。このとき、カメラをうごかすと、画像がブレたりボケたりしますので、スタンバイLEDが消灯するまでカメラはうごかさないでください。（カメラぶれ→34ページ）

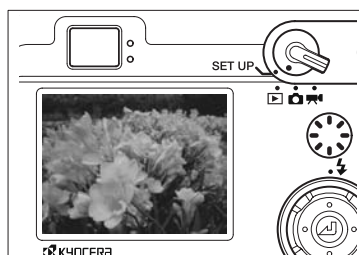
③

スタンバイLEDが消灯しましたら撮影完了です。

●警告LEDが点滅しているときはストロボ充電中です。消灯するまで次の撮影はお待ちください。（LEDの表示→19ページ）

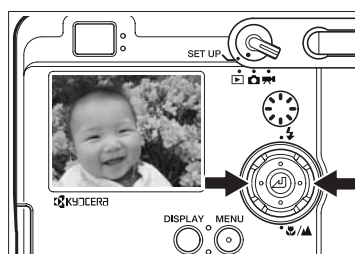
●カードアクセスLEDが点滅しているときは、メモリーカードに画像を記録しています。このときに、カードカバーを開けたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。データがこわれる可能性があります。（撮影はできます）

☆シャッターボタンの半押し

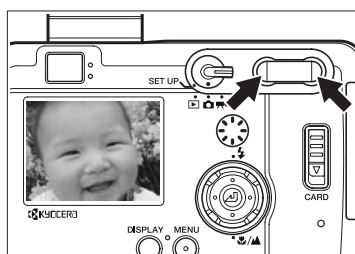
シャッターボタンを押すと、ボタンを押しきる迄の途中で止まるところがあります。この状態を半押しといい、カメラは露出とピントを決めて撮影のための準備をします。この状態からさらに押し込むと画像が撮影されます。

撮った画像を確認する(画像の再生)

4

モード切替レバーを"▶"に合わせます。

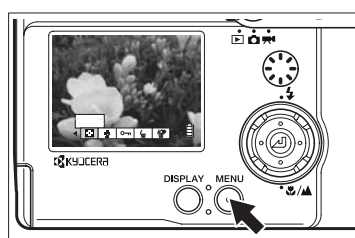
撮った画像が液晶モニターに現れます。

5

十字ボタンの右を押すと撮った画像が順送りで現れ、左を押すと逆送りで現れます。

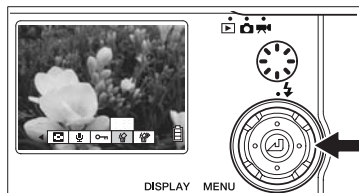
6

テレボタンを押すと画像が拡大でき、ワイドボタンを押すと元のサイズに戻ります。

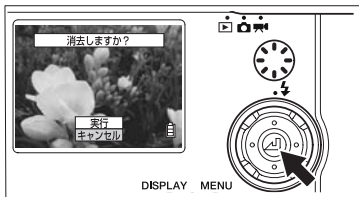
●拡大後、十字ボタンで表示範囲が選べます。

不要な画像を消す(画像の消去)

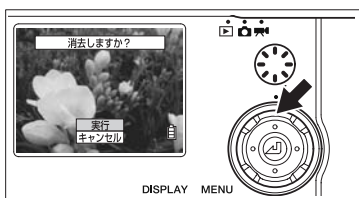
7

MENU
メニューボタンを押します。

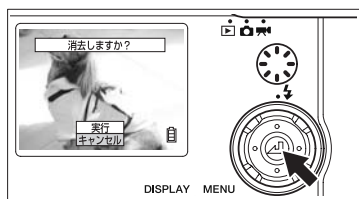
再生のメニューアイコンが現れます。

8

十字ボタンの右を押して[消去]を選びます。

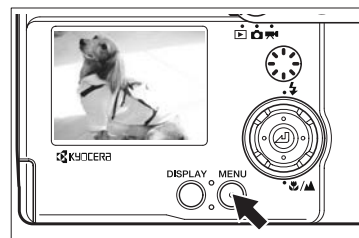
9

決定ボタンを押します。

消去を確認する画面に変わります。

10

十字ボタンの上を押して[実行]を選びます。

11

決定ボタンを押すと、画像が消去されます。

液晶モニターには消えた画像の次に保存されていた画像が現れます。

12

MENU

メニューボタンを押すと、消去の作業は終了です。

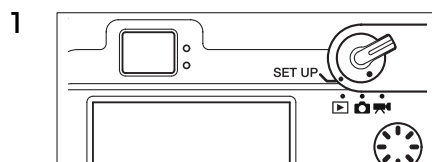
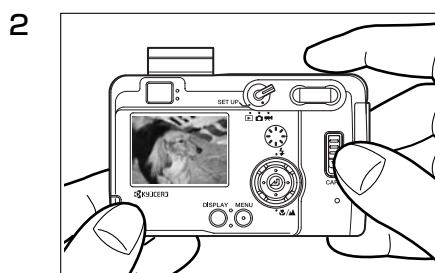
続けて消去する場合は、10からの手順を繰り返してください。

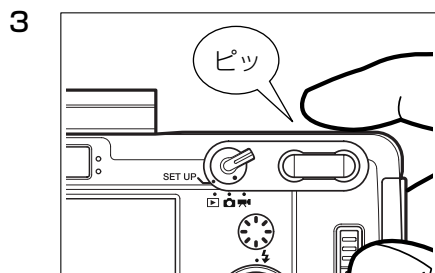
●10のとき、十字ボタンの左または右を押すと消去したい画像が選べます。

動画を撮るときは（動画の撮影）

1

モード切替レバーを"🎥"に合わせて、電源をONにします。

2

液晶モニターを見ながら構図を決めます。

3

シャッターボタンを押すと、撮影が始まります。

ズームボタンは撮影前にお使いになれますが、撮影中はご利用になれません。（音声ありの場合）→43ページ

320 00:04

シャッターボタンを押すと秒数をカウント表示します。
320x240: 0→30（秒）
160x120: 0→120（秒）

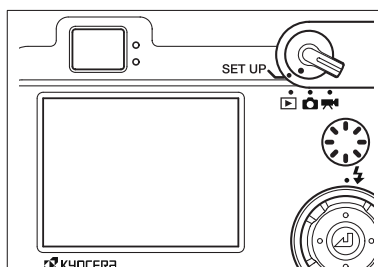
4

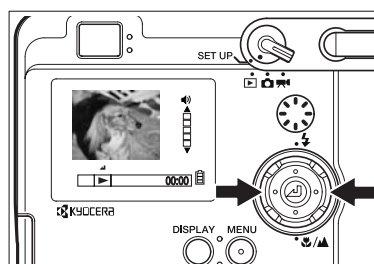
30秒後または120秒後、撮影が終わります。

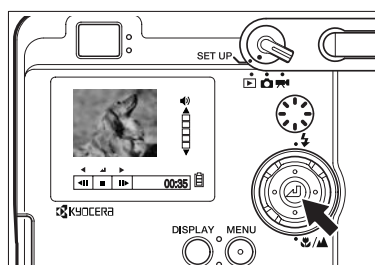
途中で撮影を止めるときは、シャッターボタンを押してください。

- 画素数が160x120のときは120秒の動画が撮れます。→38、40ページ

動画を確認する（動画の再生）

5

モード切替レバーを"▶"に合わせます。

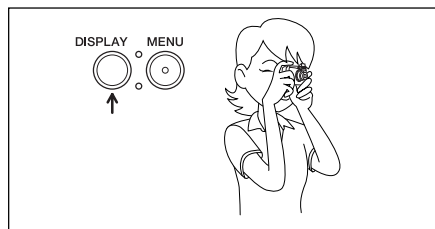
6

十字ボタンの左右を押して再生させる画像を選びます。

7

決定ボタンを押すと再生が始まります。

●動画再生の詳しい操作のしかたは、59ページをご覧ください。

撮影の便利な操作と機能

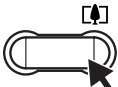
☆ファインダーを使った撮影で節電

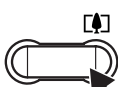
旅先やお出かけ先など充電がすぐにできない状況で、電池の消費を抑えたいときは、液晶モニターを消してファインダーを使った撮影をおすすめします。

DISPLAY ◯ ディスプレイボタンを2回押すと、液晶モニターが消えます。→56ページ

カメラぶれや視野率、パララックスに注意して撮影してください。

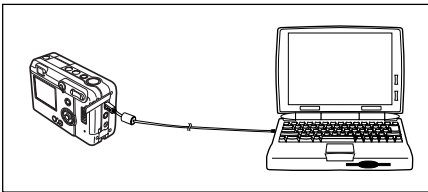
カメラぶれ→34ページ、パララックス→36ページ、視野率は96ページの主な仕様をご覧ください。

☆ズームボタンを使った撮影（光学ズームと電子ズーム）

運動会や学芸会など被写体に近づけないときの撮影や景色をクローズアップして構図を決めるときにはズームボタンを使うと便利です。

"[♠]" テレボタンを押して拡大し、"[♠♠♠]"ワイドボタンの縮小も使って調節して構図を決めます。

また、このカメラにはレンズが伸び縮みする光学ズームに加えて、電気的に制御して拡大する電子ズームがあります。画質が劣化しますが、光学ズームとの組合せで最大12倍（S3Lは6倍）までの拡大ができます。

使いかたは、"[♠]"テレボタンを押して光学ズーム拡大が最大になるまでズームしたら一旦ボタンから指を離し、再び押すと電子ズームが始まります。

画像がいっぱいになったら…

メモリーカードに画像を記録できなくなると、「カードが一杯です」のメッセージが液晶モニターに現れます。このときは新しいメモリーカードに差し替えるか、パソコンに画像を保存してからメモリーカードにある画像を消してください。

パソコンに画像を保存する場合は、付属のUSBケーブルを使います。詳しくは85ページをご覧ください。また、メモリーカードにある画像を全て消す場合は「全消去」と「フォーマット」の2通りがあります。「全消去」は65ページ、「フォーマット」は76ページをご覧ください。

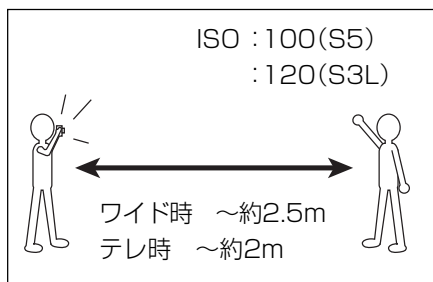
“📷”カメラモードと“🎥”動画モードの機能を使いこなす

このカメラにはたくさんの撮るための機能が用意されています。
周囲の状況に合わせた撮影や作品づくりに、このカメラの機能を活用してください。

📷モードでお使いになれるモードです。

ストロボモードを使うときは?

このカメラには、周囲の明るさを判断してストロボが必要か不要かを決める自動発光の機能がついています。
しかし、ストロボは周囲が暗いとき以外にも便利な使いかたがあります。周りが明るくても発光させる、薄暗くても発光させないなど撮影の場面に合わせたストロボモードの使いかたをご説明します。

ストロボの光が届く距離

ズーミングの状態とISOの感度によって違いがあります。撮影のときは次の距離を参考にしてください。
(ISO→53ページ)

ストロボ機能の種類

AUTO 自動発光モード（初期設定）

カメラが周囲の明るさを判断してストロボの発光が必要か不要かを決めます。

赤目軽減モード

人の目が赤く写ること、これを赤目現象（→☆赤目現象とは）といいます。このモードではストロボが撮影直前と撮影時の2回発光して赤目に写るのを軽減させます。

●1回目の発光では撮影は行われずに、2回目の発光のとき撮影されます。1回目の発光後、カメラを動かしたり、人物が動かないように注意してください。

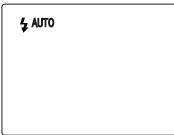
発光禁止モード

周囲の明るさに関係なくストロボを発光させないモードです。夕暮れや室内の雰囲気を画像に残したいときはこちらをお使いください。なお、このモードでは明るさによってシャッタースピードが遅くなることがありますので、撮影時には三脚などでカメラを固定してカメラぶれを防いでください。

●画像が暗く撮れるときは、明るさが足りないので、露出補正（→41ページ）やISO感度（→53ページ）を使って調節してください。

強制発光モード

周囲の明るさに関係なくストロボを発光させるモードです。強い日差しの下や逆光下でスナップ撮影をするときは被写体が暗くなりがちです。このようなとき、被写体も背景もキレイに撮ることができます。

夜景ポートレート

夜景をバックに人物を撮影する場合、シャッタースピードを遅くしてストロボも発光させると夜景も人物もキレイに撮ることができます。これをモードとして設けたのがこの夜景モードです。シャッタースピードが遅くなるので撮影時には三脚などでカメラを固定してカメラぶれを防いでください。

☆赤目現象とは

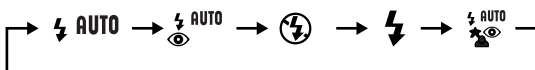
眼球に入った光の反射（眼底反射）によって起こる、瞳が赤く写る現象です。

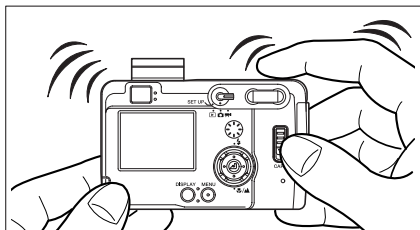
ストロボモードのつづき

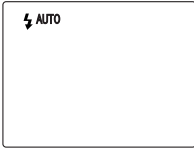
設定のしかた－[⚡]に設定する場合

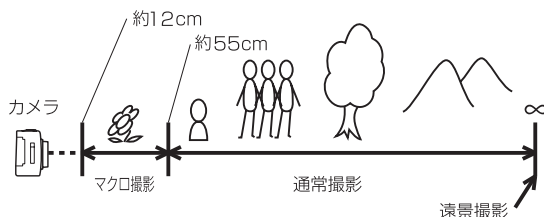
1　電源をONにしてモード切替レバーを"📷"に合わせます。

2　十字ボタンの上を押して液晶モニターに[⚡]が表示されたら設定完了です。

十字ボタンの上を押す毎にストロボモードのアイコンが切り替わります。

● このモードは電源をOFFにすると、初期設定の[⚡ AUTO]自動発光に戻ります。設定を保持させたい場合は、モードロック(→78ページ)をONにしてください。

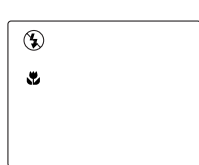
☆カメラぶれにご注意ください

カメラぶれとは、撮影時にカメラが揺れてしまうことで、これにより画像がブレてしまったり、ボケてしまったりすることがあります。これはシャッタースピードが遅くなっているときやマクロ撮影のときに起こりやすく、特にマクロ撮影のときは被写界深度が極端に浅くなるので、シャッターボタンを押す行為で起こるカメラの小さな揺れが画像に影響してしまいます。
このような場合はカメラを三脚で固定すると効果的にカメラぶれを防ぐことができます。また、マクロ撮影の場合はこれに加えてセルフタイマーの[⏲ 2]2秒を使うとより効果的です。

モードとモードでお使いになれるモードです。

[/] 近くのものを撮る、風景を撮る

花やコインなど小さな被写体に近づいて撮るときはマクロ撮影モードをお使いください。最短で約12cm(レンズ面から)まで近づいて撮ることができます。
また、風景などを撮るときは遠景撮影モードをお使いください。レンズが∞(無限)の設定になります。

設定のしかた-[] に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを“”に合わせます。

2 **十字ボタンの下を押して液晶モニターに[]が表示されたら設定完了です。**

AUTO

十字ボタンの下を押す毎にマクロ／遠景モードのアイコンが切り替わります。

- []遠景モードでは、ストロボは発光しません。
- マクロモードでは、 十字ボタンの上を押すと強制発光モードにすることができます。
  この場合、露出オーバーになりますので、露出補正(→41ページ)を使って調節してください。
- このモードは電源をOFFにすると、通常撮影に戻ります。設定を保持させたい場合は、モードロック(→78ページ)をONに設定してください。

!!!こんなこともできる!!!

遠景モードは、空などコントラストの少ない風景を撮るときや暗いところでのピントが合いづらいときの撮影にも便利です。

☆パララックスってなに?

<構図のズレ>

ファインダーから覗いたときの構図　実際に撮影した画像

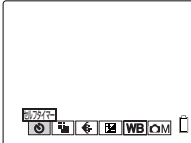
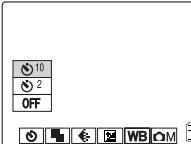
パララックス(視差)とは、ファインダーを覗いたときの構図と実際に撮った画像の構図がずれてしまうことで、特にマクロ撮影のときに注意が必要です。
ファインダーでマクロ撮影をする場合は、このパララックスを予測してカメラをずらして撮影します。(どれほどずれるかは被写体との距離によって違うので、試し撮りなどで確認してください。)
また、液晶モニターを使うと、このパララックスは起こりませんので、こちらを使って撮影することをおすすめします。

モードとモードでお使いになれるモードです。

[] セルフタイマーを使った撮影は?

自分(撮影者)も一緒に写りたいときはこのモードをお使いください。シャッターボタンを押してから10秒後にシャッターが切れます。

OFF　(初期設定)通常撮影

10　10秒のセルフタイマーが設定できます。

2　2秒のセルフタイマーが設定できます。*

* セルフタイマー[2]は、マクロ撮影でお使いになると、カメラぶれを効果的に防げます。

設定のしかた－[10] に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを“”または“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押してセルフタイマー[]を選び、決定ボタンを押します。

セルフタイマー
WB M

4 十字ボタンの上下を押して[10]を選び、決定ボタンを押します。

10
2
OFF
WB M

5 [10]が表示されたら、設定完了です。

MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。

10
WB M

- このモードは撮影後に設定が解除されます。続けてセルフタイマー撮影をするときは、再度設定をしてください。
- カメラは三脚などで固定してください。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、シャッターボタンを押してください。

モードとモードでお使いになれるモードです。

[] 画素数を選ぶには?

画素数とは、画像を作り上げている一つ一つの点(ドット)の数をいいます。この点の数が多いほど画像の質は上がりますが、画像ファイルの容量は大きくなるので撮影できる枚数は少なくなります。
撮った画像を何に使うのか、目的に合わせて選んでください。

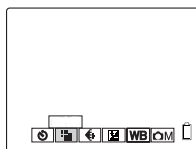
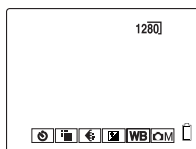
〈静止画〉		〈動画〉
Finecam S5	Finecam S3L	Finecam S5/S3L
2560x1920（初期設定）	2048x1536（初期設定）	320x240（初期設定）
1600x1200	1600x1200	160x120
1280x960	1280x960	
640x480	640x480	

設定のしかた－[1280]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを“”または“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して画素数[]を選び、決定ボタンを押します。

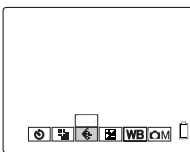
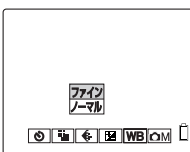
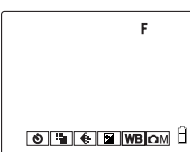
画素数
WB M

4 十字ボタンの上下を押して[1280x960]を選び、決定ボタンを押します。

2560X1920
1600X1200
1280X960
640X480
WB M

5 [1280]が表示されたら、設定完了です。

1280
WB M

MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

モードでお使いになれるモードです。

[ ] 画像の圧縮率を選ぶには?

画質では、高圧縮の[ノーマル]と低圧縮の[ファイン]画像の圧縮率が選べます。圧縮率は低いほど、画質は良くなりますがファイルの容量が大きくなり、撮影できる枚数が少なくなりますので、画素数と同様、目的に合わせてお選びください。

[F]	ファイン	低い圧縮率の画像が撮れます。
[N]	ノーマル (初期設定)	高い圧縮率の画像が撮れます。

●静止画のみ設定可能です。動画では選べません。

設定のしかた－[ファイン]に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して画質[ ]を選び、決定ボタンを押します。

画質
WB M

4 十字ボタンの上下を押して[ファイン]を選び、決定ボタンを押します。

ファイン
ノーマル
WB M

5 [F]が表示されたら、設定完了です。

F
WB M

MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

☆画素数と画質の組合せによる撮影枚数と容量

	画素数	画質*1	ファイル容量*2	メモリーカードに保存できる枚数*3
カメラモード（静止画）	2560x1920（S5のみ）	F	約2.5MB	約4～6枚
		N	約1.3MB	約8～12枚
	2048x1536（S3Lのみ）	F	約1.6MB	約6～9枚
		N	約800KB	約12～18枚
	1600x1200	F	約1.0MB	約10～15枚
		N	約500KB	約20～29枚
	1280x960	F	約660KB	約16～23枚
		N	約360KB	約30～43枚
	640x480	F	約210KB	約54～73枚
		N	約140KB	約88～112枚
動画モード	320x240		約8.9MB*4	約1～2枚*4
	160x120		約9.6MB*5	約1～2枚*5

*1　F（ファイン）、N（ノーマル）

*2　被写体によって違いがあります。あくまでも目安の容量です。

*3　16MBのメモリーカードを使った場合で、あくまでも目安の数値です。

*4　音声付きで30秒記録した場合

*5　音声付きで120秒記録した場合

☆画素数や画質を選ぶときの目安

キレイにプリントしたいときや画像の質を重視するときは、大きい画素数を選び、メールに添付するときは小さい画素数にしてファイルの容量を少なくします。

画質は特に画質を重視する場合は［ファイン］にして、それ以外は［ノーマル］をお使いいただくとファイルの容量を抑えて記録枚数が多くなります。

モードとモードでお使いになれるモードです。

[] 露出補正のしかたは?

露出補正は、明るさを調節したいとき使います。0.3EVおきに「＋」または「－」に最大2.0EVまでの補正ができます。

明るく　　暗く

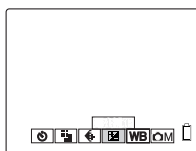
+2.0 ← ±0.0 → －2.0
（初期設定）

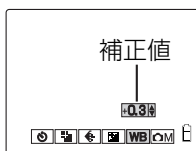
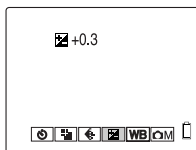
設定のしかた－[+0.3] に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを“”または“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3
十字ボタンの左右を押して露出補正[]を選び、決定ボタンを押します。

4 補正値 +0.3

十字ボタンの上下を押して補正値[+0.3]を選び、決定ボタンを押します。

5 +0.3

[+0.3]が表示されたら、設定完了です。

MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。

- 設定した補正値は、撮影後もそのまま変わりません。(例えば+0.3に設定したら、それ以後撮影した画像は全て+0.3になります。)
- 電源をOFFにすると、初期設定(±0.0)に戻ります。設定を保持させたい場合は、モードロック(→78ページ)をONに設定してください。

☆露出補正を使う目安

このモードは被写体とその背景の明るさが極端に違うために、適正な露出が得られない場合や、意図的にアンダーやオーバーの画像を撮りたいときに使います。

モードとモードでお使いになれるモードです。

[WB] ホワイトバランスの決めかた

被写体の色は光源によって変化し、特に白は光源に影響されやすいものです。その白を白く見せるための調整をホワイトバランスといいます。

ホワイトバランスの種類

AUTO	自動（初期設定）	周囲の状況に合わせて自動でホワイトバランスを設定します。
	太陽 白熱電球 曇天 蛍光灯	光源を指定できるので、被写体などの色に影響されることなく撮影ができます。
PS	プリセット	[詳細設定]で設定したホワイトバランスを使います。予めの設定が必要です。→48ページ

設定のしかた－[ ] に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを" "または" "に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

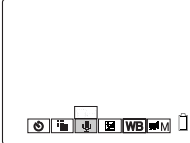
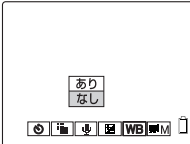
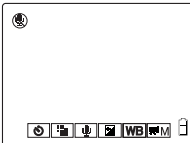
3 十字ボタンの左右を押して[WB]ホワイトバランスを選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[ ]を選び、決定ボタンを押します。

5 [ ]が表示されたら、設定完了です。

MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。

● このモードは電源をOFFにすると、初期設定のAUTOに戻ります。設定を保持させたい場合は、モードロック（→78ページ）をONに設定してください。

モードでお使いになれるモードです。

[ ]音声無し（または音声付き）の動画を撮る

動画を撮るとき一緒に音も記録するか、音声無しの動画を撮るかが選べます。音も一緒に記録する場合[あり]は、撮影中のズーミングができません。音声無しの場合[なし]は、撮影中でもズーミングができます。

[あり] 音声付きの動画が撮れますが撮影中のズーミングはできません。（初期設定）

[なし] 動画に音声は付きませんが撮影中のズーミングができます。

設定のしかた－[なし]に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3

十字ボタンの左右を押して音声[ ]を選び、 決定ボタンを押します。

4

十字ボタンの上下を押して[なし]を選び、 決定ボタンを押します。

5

[ ]が表示されたら、設定完了です。

MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。

● このカメラでは、ズーミング音を拾わないため、音声ありの動画では撮影中のズーミングができない仕様になっています。ズームを使うときは、撮影前にズーミングして構図を決めるか、音声無しに設定して撮影してください。

モードとモードでお使いになれるモードです。

[M] / [M] 詳細設定でもっと細かい機能を設定する

この詳細設定では、AEの設定や長時間露光など一眼レフカメラにあるような機能の設定や、デジタルカメラ特有のカラー設定や彩度の設定ができます。

詳細のメニュー	内容・用途	モード	ページ
[カラーモード]	[カラー]、[白黒]、[セピア]に切替できます。	／	45
[彩度]	[+]、[標準]、[−]があります。[+]にすると鮮やかさを強く、[−]にすると弱くできます。		46
[シャープネス]	[+3]、[+2]、[+1]、[標準]、[−1]があります。+にするほど被写体の輪郭をくっきりさせる効果があります。		47
[WBプリセット]	白い紙などを使って基準となる白を自分で決めることができるモードです。	／	48
[AEモード]	[F2.8]、[F9.6]の絞り値と[プログラム]があります。絞り値を設定すると、シャッタースピードはカメラが自動で設定します。		49
[フォーカス]	[ワイドAF]と[スポットAF]のオートフォーカスと[MF]のマニュアルフォーカスがあります。	／	50
[長時間露光]	[8秒]、[4秒]、[2秒]のシャッタースピードと[OFF]があります。		52
[ISO]	[AUTO]、[100]*、[200]、[400]が選べます。動きの速い被写体には[400]、画像の質を重視する場合は[200]や[100]*を設定してください。		53
[測光モード]	カメラが露出を決めるときの方式[評価測光]、[中央重点]、[スポット]が選べます。		54
[電子ズーム]	電子ズームを使う場合は[ON]、使わない場合は[OFF]を選びます。		55

* Finecam S3Lは[120]

[M] / [M]

[カラーモード] –カラー、白黒、セピアが選べる

セピア調やモノクロのフィルムで撮影した写真と同じような色合いが選べます。

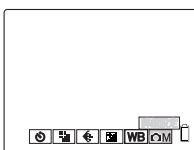
[表示なし]	カラー(初期設定)
[B/W]	白黒
[SEPIA]	セピア

設定のしかた– [セピア] に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを" "または" "に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

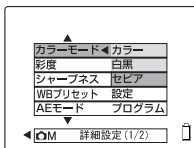
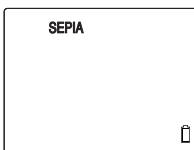
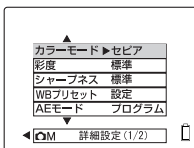
3

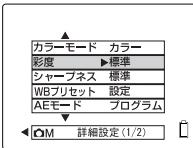
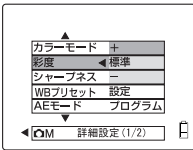
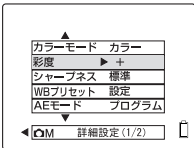
十字ボタンの左右を押して[M]を選び、決定ボタンを押します。

4

十字ボタンの上下を押して[カラーモード]を選び、十字ボタンの右を押します。

5

十字ボタンの上下を押して[セピア]を選び、決定ボタンを押します。

6

MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら設定完了です。

液晶モニターに[SEPIA]が表示されます。

● このモードは電源をOFFにすると、初期設定のカラーに戻ります。

[📷M]

[彩度] –鮮やかさを変える

[彩度]では、色の鮮やかさを強くした画像や抑えた画像を撮ることができます。

[⌀+1]	＋	鮮やかさを強く
[表示なし]	標準(初期設定)	▼
[⌀−1]	−	ぼんやり

設定のしかた–[+]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを“📷”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンを使って[📷M]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[彩度]を選び、十字ボタンの右を押します。

カラーモード　カラー
彩度　▶標準
シャープネス　標準
WBプリセット　設定
AEモード　プログラム
◀ 📷M　詳細設定(1/2)

5 十字ボタンの上下を押して[+]を選び、決定ボタンを押します。

カラーモード　＋
彩度　◀標準
シャープネス　−
WBプリセット　設定
AEモード　プログラム
◀ 📷M　詳細設定(1/2)

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[⌀+1]が表示されます。

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[◘M]

[シャープネス]ー輪郭をくっきりさせる

被写体の輪郭を強調したり、柔らかくした画像を撮ることができます。

[◘+3]	+3	輪郭強調を強く
[◘+2]	+2	
[◘+1]	+1	
[表示なし]	標準（初期設定）	
[◘−1]	−1	輪郭強調を抑える

設定のしかたー[◘+2]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを“◘”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンを使って[◘M]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[シャープネス]を選び、十字ボタンの右を押します。

カラーモード カラー
彩度 標準
シャープネス ▶標準
WBプリセット 設定
AEモード プログラム
◘M 詳細設定（1/2）

5 十字ボタンの上下を押して[+2]を選び、決定ボタンを押します。

カラーモード +3
彩度 +2
シャープネス◀ +1
WBプリセット 標準
AEモード −1
◘M 詳細設定（1/2）

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[◘+2]が表示されます。

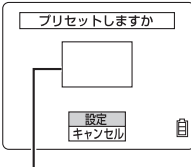
● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[M] / [M]

[WBプリセット] –白を自分で決める

光源が複数ある場合や白を厳密に設定したいときは、このモードをお使いください。

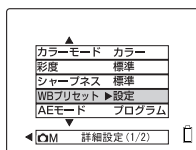
設定のしかた

あらかじめ、白い紙など白の基準となる被写体を用意しておきます。

1 電源をONにしてモード切替レバーを“”または“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して[M]を選び、決定ボタンを押します。

4

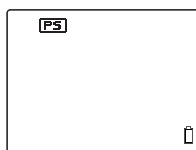
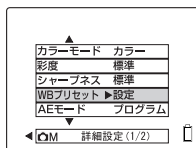
十字ボタンの上下を押して[WBプリセット]を選び、十字ボタンの右を押します。

5

予め用意した白の被写体を画面の枠いっぱいに合わせて[設定]を選び、決定ボタンを押します。

この枠いっぱいに被写体を合わせる

紙などの白い被写体

6

MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[PS]が表示されます。

- このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。
- このモードの設定は、カメラモード、動画モードのそれぞれで行ってください。

[M]

[AEモード] –露出の合わせかたを選ぶ

このモードは、カメラが自動で絞り値とシャッタースピードを決める[プログラム]と絞り値を固定してシャッタースピードはカメラにお任せの[F2.8]、[F9.6]があります。絞り値は大きいほど、被写体を中心に鮮明に写る範囲(前後)が広がります。

[表示なし]	プログラム(初期設定)	被写体に合わせてカメラがシャッタースピードと絞り値を決めます。
[F2.8]	F2.8	鮮明に写る範囲が狭くなり、被写体を際立たせます。
[F9.6]	F9.6	鮮明に写る範囲が広くなり、被写体も背景(手前)も鮮明に写ります。

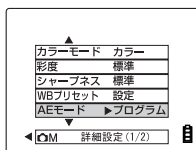
設定のしかた– [F9.6] に設定する場合

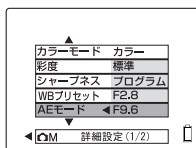
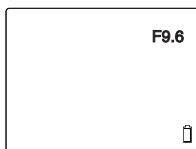
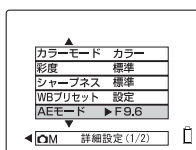
1 電源をONにしてモード切替レバーを"　"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して[M]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[AEモード]を選び、十字ボタンの右を押します。

カラーモード　カラー
彩度　標準
シャープネス　標準
WBプリセット　設定
AEモード　▶プログラム
◀ M　詳細設定(1/2)

5 十字ボタンの上下を押して[F9.6]を選び、決定ボタンを押します。

カラーモード　カラー
彩度　標準
シャープネス　プログラム
WBプリセット　F2.8
AEモード　◀F9.6
◀ M　詳細設定(1/2)

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[F9.6]が表示されます。

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[◘M] / [▶M]

[フォーカス] –ピントの合わせかたを選ぶ

ピントの合わせかたが選べるモードです。
ピントを自動で合わせる[ワイドAF*]、[スポットAF*]と撮影距離を自分で決めるマニュアルフォーカス[MF]があります。
* AF:オートフォーカス

ワイドAF　幅が広めのフォーカスフレームです。

スポットAF（初期設定）　通常のフォーカスフレームです。

0.6　∞

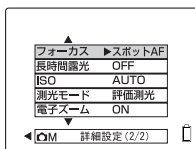
MF　ご自分で撮影距離を決めてピントを合わせます。

設定のしかた– [MF] に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを"◘"または"▶"に合わせます。

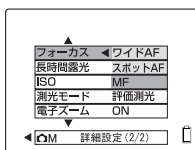
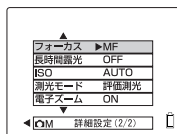
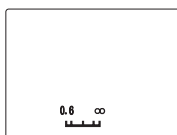
2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

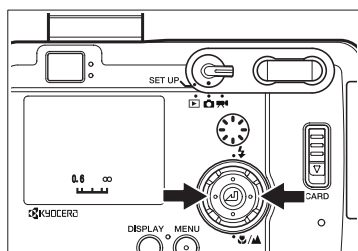
3 十字ボタンの左右を押して[◘M]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[フォーカス]を選び、十字ボタンの右を押します。

5 十字ボタンの上下を押して[MF]を選び、決定ボタンを押します。

6

フォーカス	▶MF
長時間露光	OFF
ISO	AUTO
測光モード	評価測光
電子ズーム	ON

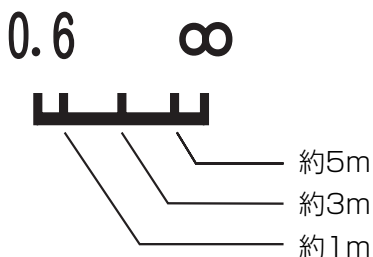
◀M 詳細設定（2/2）

MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターにフォーカスゲージが表示されます。

撮影距離の決めかた

十字ボタンの左右を押して距離を合わせます。

● [MF]のピント合わせはファインダーでは確認できません。液晶モニターをお使いください。

撮影距離の目安

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[M]

[長時間露光] –シャッタースピードを遅くする

星空や暗がりでの小さな光(ろうそくとか)を撮影するときはシャッタースピードを遅くします。シャッタースピードは、シャッターが開いている時間の長さで、この時間が長い(遅い)ほど被写体を写し込む時間が長くなります。

[LT8S]	8秒	2秒、4秒、8秒のシャッタースピードが設定できます。
[LT4S]	4秒	
[LT2S]	2秒	
[表示なし]	OFF (初期設定)	通常の撮影(1秒〜1/2000秒以下)ができます。

● 設定する時間は被写体によって違いがありますので、試し撮りなどで ご確認ください。

設定のしかた– [LT4S] に設定する場合

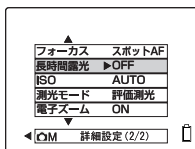
1 電源をONにして モード切替レバーを“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

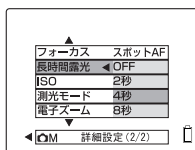
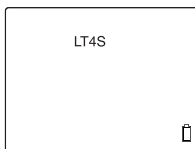
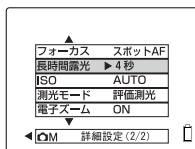
3 十字ボタンの左右を押して[M] を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[長時間露光] を選び、十字ボタンの右を押します。

フォーカス	スポットAF
長時間露光	▶OFF
ISO	AUTO
測光モード	評価測光
電子ズーム	ON

◀ M 詳細設定 (2/2)

5 十字ボタンの上下を押して[4秒] を選び、決定ボタンを押します。

フォーカス	スポットAF
長時間露光	◀ OFF
ISO	2秒
測光モード	4秒
電子ズーム	8秒

◀ M 詳細設定 (2/2)

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[LT4S]が表示されます。

●シャッタースピードを長く設定した場合、画像にノイズが含まれることがあります。

● このモードは電源をOFFにすると、長時間露光は解除され、通常の撮影(初期設定)に戻ります。

[M]

[ISO] –ISO感度を変えて動きの速い被写体を撮る

[ISO]は、フィルムのISO感度に相当する光に対する敏感さを表しています。このモードでは[AUTO]、[100]*、[200]、[400]があり、数字が増えるほど画像の質は荒くなりますが、光に対する感度が高くなり、暗いところでの撮影や高速シャッターでの撮影ができます。また、ストロボ光の届く距離も通常より少し長くなります。

[ISO400]	400	
[ISO200]	200	固定のISO感度を設定できます。
[ISO100]*	100	
[表示なし]	AUTO（初期設定）	周囲の状況に合わせたISO感度をカメラが設定します。

*Finecam S3Lでは[ISO120]

設定のしかた– [ISO200] に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して[M] を選び、決定ボタンを押します。

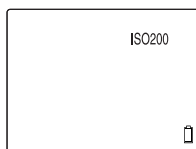
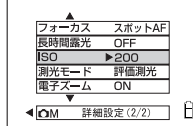
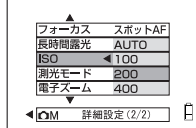
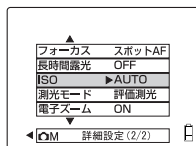
4 十字ボタンの上下を押して[ISO] を選び、十字ボタンの右を押します。

フォーカス　スポットAF
長時間露光　OFF
ISO　▶AUTO
測光モード　評価測光
電子ズーム　ON
M　詳細設定（2/2）

5 十字ボタンの上下を押して[200] を選び、決定ボタンを押します。

フォーカス　スポットAF
長時間露光　AUTO
ISO　◀100
測光モード　200
電子ズーム　400
M　詳細設定（2/2）

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

フォーカス　スポットAF
長時間露光　OFF
ISO　▶200
測光モード　評価測光
電子ズーム　ON
M　詳細設定（2/2）

液晶モニターに[ISO200]が表示されます。

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[M]

[測光モード]–露出を合わせる範囲を選ぶ

露出を合わせる範囲が選べるモードで、評価測光、中央重点、スポットの3種類があります。被写体により、使い分けてください。

[表示なし]	評価測光 (初期設定)	画面全体を64分割して光の量を測り、その被写体に最適な露出値を決める測光方式です。
□	中央重点	画面のほぼ中央の範囲(スポットより大きい)で、特に中央部に重点を置いて測光する方式です。
⊡	スポット	画面の中心部で測光する方式です。

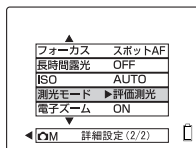
設定のしかた–[スポット]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

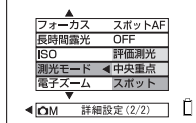
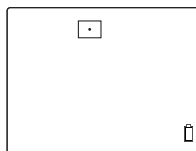
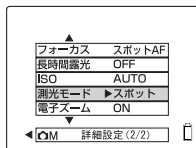
3 十字ボタンの左右を押して[M]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[測光モード]を選び、十字ボタンの右を押します。

フォーカス	スポットAF
長時間露光	OFF
ISO	AUTO
測光モード	▶評価測光
電子ズーム	ON
M	詳細設定(2/2)

5 十字ボタンの上下を押して[スポット]を選び、決定ボタンを押します。

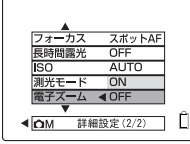
フォーカス	スポットAF
長時間露光	OFF
ISO	評価測光
測光モード	◀中央重点
電子ズーム	スポット
M	詳細設定(2/2)

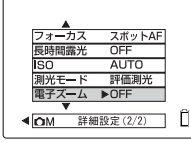
6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

フォーカス	スポットAF
長時間露光	OFF
ISO	AUTO
測光モード	▶スポット
電子ズーム	ON
M	詳細設定(2/2)

液晶モニターに[⊡]が表示されます。

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[◘M]

[電子ズーム]–電子ズームのONまたはOFFを選ぶ

構図を決めるとき、テレボタンで最大に拡大した後テレボタンを押し直すと電子ズームが始まります(→30ページ)。この電子ズームを使用禁止にするときは、ここで[OFF]に設定します。

ON（初期設定）　電子ズームが使えます。
OFF　電子ズームは使用禁止です。
※アイコンの表示はどちらもありません。

設定のしかた–[OFF]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを“◘”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して[◘M]を選び、決定ボタンを押します。

4

フォーカス　スポットAF
長時間露光　OFF
ISO　AUTO
測光モード　評価測光
電子ズーム　▶ON
◘M　詳細設定（2/2）

十字ボタンの上下を押して[電子ズーム]を選び、十字ボタンの右を押します。

5

フォーカス　スポットAF
長時間露光　OFF
ISO　AUTO
測光モード　ON
電子ズーム　◀OFF
◘M　詳細設定（2/2）

十字ボタンの上下を押して[OFF]を選び、決定ボタンを押します。

6

MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

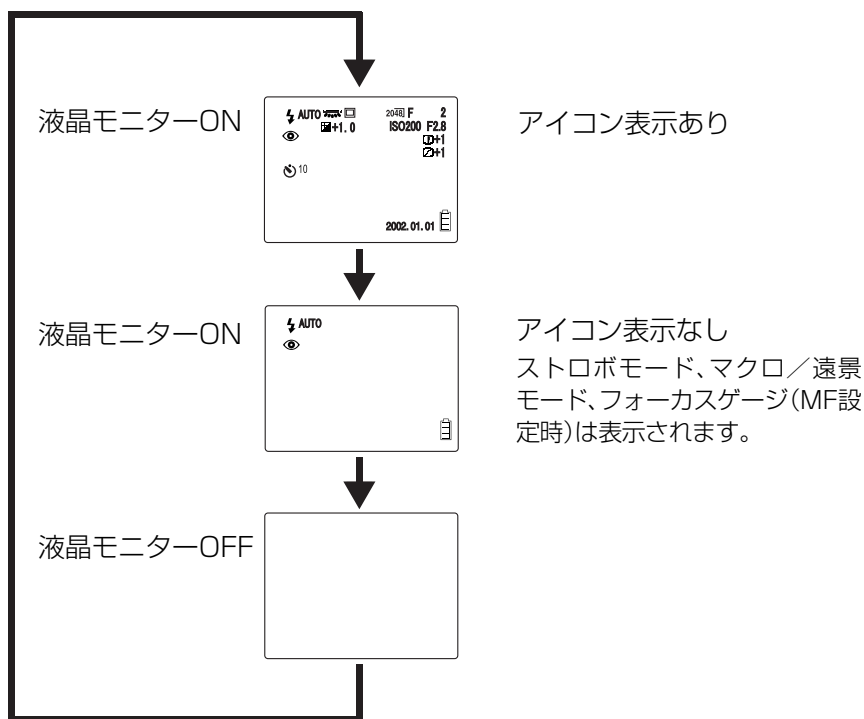
● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

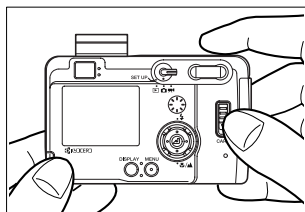
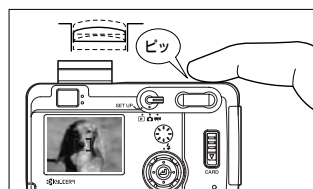
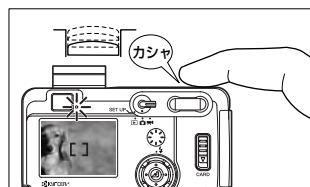
モードとモードでお使いになれるモードです。

設定した機能のアイコンをOFFまたはONにする

モードとモードで機能を設定すると、初期設定以外のアイコンは全て液晶モニターに表示されています。これは設定した内容を確認するときは便利ですが、撮影のときは使いづらいものです。
このような場合に DISPLAY ディスプレイボタンを使うとアイコンの表示を必要に応じてつけたり消したりできます。

設定のしかた

モード切替レバーがモードまたはモードで撮影できる状態のときに、DISPLAY ディスプレイボタンを押すと、次のように液晶モニターの表示状態が切り替わります。

フォーカスロックを使った撮影のしかた

フォーカスロックは、ピントを合わせたい被写体が液晶モニターの中央にないときや、中央からずらした構図を作りたいときに便利な撮影のしかたです。

ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

「ピッ」という音とスタンバイLEDが点灯したらピント合わせは完了です。ピントと露出が固定されます。(フォーカスロック、AEロック)

シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラをずらし、シャッターボタンをさらに押して撮影します。

●フォーカスロックとAEロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

☆ピントの合いにくい被写体

次のような被写体はピントが合いにくいのでフォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントをあわせて撮影して下さい。

- 低コントラストの被写体
- 繰り返し同じパターンのもの
- 暗い被写体
- 水平線など横線だけの被写体
- 非常に明るい被写体や光沢のある被写体
- ファインダー内やその周辺に強い光源がある場合、および太陽光など強い光源があり画面内に入る場合
- ファインダー内中央付近に距離の違う2つ以上の被写体がある場合
- 高速で移動する被写体

"▶"再生モードの機能と使いかた

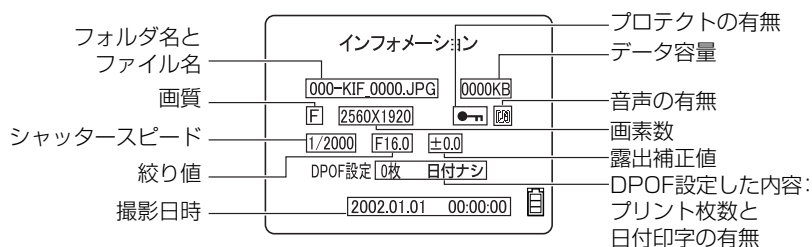
撮った画像を確認できるのがこの再生モードです。
この他にも画像に音声を付けたり、90°の回転をさせたりする機能があります。

画像のインフォメーション（撮影時の情報）を見る

撮影したときの絞り値、画質、シャッタースピードなどの情報（インフォメーション）の確認ができます。

1 **インフォメーションを見たい画像を表示させます。**

2 **十字ボタンの上または下を押します。**

インフォメーションが表示されます。

十字ボタンの右または左を押すと画像の順送りや逆送りができます。

3 **再び、十字ボタンの上または下を押します。**

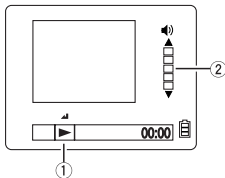
インフォメーションが消えます。

動画の再生のしかた

動画の再生は通常の再生に加えて、一時停止やコマ送り、音量の調節ができます。

1 電源をONにしてモード切替レバーを"▶"に合わせます。

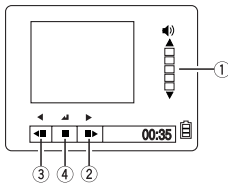
2 十字ボタンの左右を押して、再生する動画を選びます。

＜再生前の画面＞

① 決定ボタンを押すと動画の再生が始まります。

② 十字ボタンの上下を押して音量の調節ができます。

十字ボタンの右を押すと次の画像を再生します。

十字ボタンの左を押すと前の画像を再生します。

＜再生中の画面＞

① 十字ボタンの上下を押して音量の調節ができます。

② 十字ボタンの右を1回押すと動画が止まり、コマ送り再生を始めます。以後、押す毎にコマ送り再生されます。

③ 十字ボタンの左を1回押すと動画が止まり、逆コマ送り再生を始めます。以後、押す毎に逆コマ送り再生されます。

④ 決定ボタンを押すと動画を停止します。

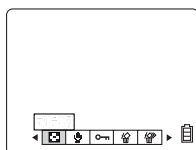
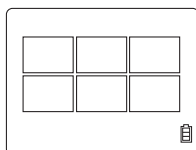
[マルチ再生]画像を一覧再生する

マルチ再生では、液晶モニターに6枚の小さい画像(サムネイル)を表示できます。

マルチ再生のしかた

1 電源をONにして モード切替レバーを"▶"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押してマルチ表示[▦]を選び、決定ボタンを押します。

マルチ再生の画面に変わります。

マルチ再生時の画面と使いかた

何枚目/総枚数:撮影した画像の総枚数に対して何枚目の画像が選ばれているか、を表わしています。

動画アイコン

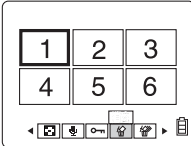
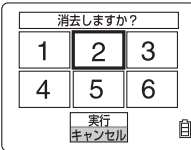
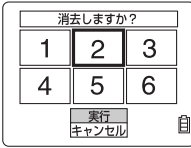
カーソル

次の画像へ
(順方向)

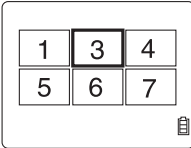
十字ボタンの左を押すと逆方向、右を押すと順方向に動き、上下を押すと上段下段の移動ができます。

MENU メニューボタンを押すとメニューアイコンが表示されます。

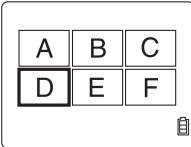
マルチ再生の画面で消去する場合

1 メニューボタンを押してメニューアイコンを表示させます。

2
十字ボタンの左右を押して消去[ ]を選び、決定ボタンを押します。

3
十字ボタンの左右を押して消去したい画像にカーソルを合わせます。

4
十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押します。

画像が消去されます。

●続けて作業をするときは、3と4の操作を繰り返します。

5
作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

マルチ再生の画面に戻ります。

通常の再生(シングル再生)に戻す

1
十字ボタンを使って、通常の再生に戻したい画像にカーソルを合わせます。

2
決定ボタンを押すと、通常の再生に変わります。

[アフレコ]画像に声のメッセージを入れる

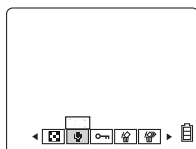
撮った画像(静止画のみ)に音声を入れたり、消したりすることができます。

録音のしかた

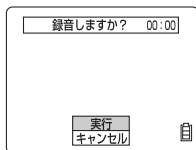
1 電源をONにしてモード切替レバーを"▶"に合わせます。

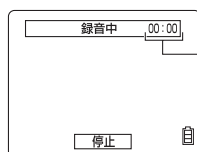
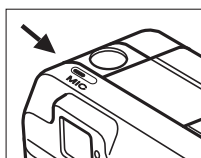
2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3

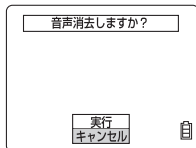
十字ボタンの左右を押してアフレコ[🎤]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの左右を押して音声を入れたい画像を選びます。

5

十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、音声録音を始めます。

6

カメラのマイクに向かってメッセージをお話しください。

録音中の秒数をカウント表示します。

●最長30秒まで録音できます。

7 録音を途中で終わらせるときは、決定ボタンを押します。

録音を途中で終わらせたときや、終了したときは、[音声消去しますか?]の画面に変わります。

8 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

音声の消去のしかた

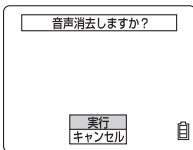
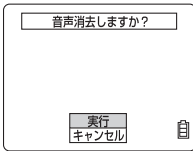
アフレコで録音した音声を消去するときの手順です。

消した音声を元に戻すことはできませんので、注意して操作してください。

「録音のしかた」の3から

4 十字ボタンの左右を押して音声を消去したい画像を選びます。

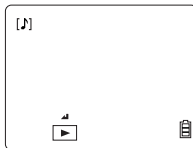
5

十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押します。

音声が消えて、[録音しますか?]の画面に変わります。

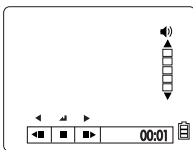
6 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

再生のしかた

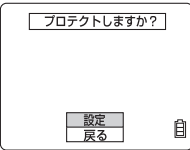
アフレコした画像は次のように表示されます。

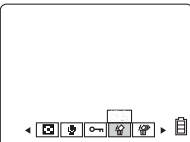
＜音声の再生前の画面＞

決定ボタンを押すと、再生が始まります。

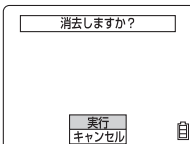
十字ボタンの左右を押すと画像の順送りと逆送りができます。

＜音声の再生中の画面＞

決定ボタンを押すと、停止します。

十字ボタンの上下を押して音量の調節ができます。

十字ボタンの右を押したままにすると倍速再生になり、離すと通常再生に戻ります。

十字ボタンの左を押したままにすると1/2倍速再生（遅くなる）になり、離すと通常再生に戻ります。

[プロテクト] 画像を消さないように保護する

大切な画像を間違えて消さないように保護（プロテクト）することができます。

プロテクトのしかた

1　電源をONにして モード切替レバーを"▶"に合わせます。

2　MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3
十字ボタンの左右を押してプロテクト[ ]を選び、決定ボタンを押します。

4　十字ボタンの左右を押してプロテクトしたい画像を選びます。

5
プロテクトしますか？
設定
戻る

十字ボタンの上を押して[設定]を選び、決定ボタンを押すと、プロテクトは完了です。

● 続けて作業をするときは、4と5の操作を繰り返します。

6　作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

● プロテクトした画像は、全消去では残りますが、フォーマットすると消去されてしまいますのでご注意ください。

[消去] 一枚の画像を消すときは

画像の消去のしかた

1　電源をONにして モード切替レバーを"▶"に合わせます。

2　MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3
十字ボタンの左右を押して消去[ ]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの左右を押して消去したい画像を選びます。

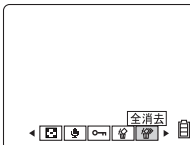
5 十字ボタンの上を押して［実行］を選び、決定ボタンを押すと、消去は完了です。

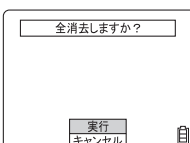
消去しますか？
実行
キャンセル

●続けて作業をするときは、4と5の操作を繰り返します。

6 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

●アフレコした画像（→62ページ）を消去した場合、音声も一緒に消えます。

［全消去］全ての画像を消すときは

メモリーカードに記録されている画像を全て消すことができます。

● プロテクトされた画像と他社製のデジタルカメラで撮影した画像は消せません。→64ページ

全消去のしかた

1 電源をONにしてモード切替レバーを“▶”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して全消去［ ］を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上を押して［実行］を選び、決定ボタンを押すと、全消去は完了です。

● 画像が表示された場合、その画像はプロテクトされているか、他社製のカメラで撮影した画像であることが考えられます。

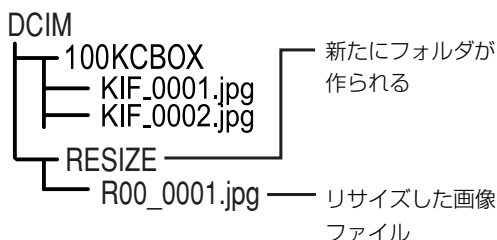
●アフレコした画像（→62ページ）は音声も一緒に消えます。

5 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

[リサイズ] 画素数の変更とトリミングをする

撮った画像の画素数を変更する(リサイズ)ことと切り取る(トリミング)ことができます。リサイズしたりやトリミングした画像は新たな画像として保存されますので、元の画像は残しておくことができます。

●リサイズした画像は次のように記録されています。

```
DCIM
├─100KCBOX
│   ├─ KIF_0001.jpg
│   └─ KIF_0002.jpg
└─RESIZE ─────────── 新たにフォルダが作られる
    └─ R00_0001.jpg ── リサイズした画像ファイル
```

リサイズのしかた

1 電源をONにしてモード切替レバーを"▶"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押してリサイズ[ ]を選び、決定ボタンを押します。

リサイズ

4 十字ボタンの上を押して[リサイズ実行]を選び、決定ボタンを押します。

リサイズメニュー
リサイズ実行
リサイズ画像を見る
戻る

5 十字ボタンの左右を押してリサイズしたい画像を選び、十字ボタンの上を押して[決定]を選び、決定ボタンを押します。

リサイズ画像選択
決定
キャンセル

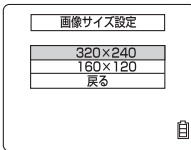
6 リサイズする範囲を決めます。

画素数だけを変えるとき

決定ボタンを押します。

範囲を拡大するときは

[ ]テレボタンを押して2倍、4倍に拡大し、十字ボタンで範囲を決めたら、決定ボタンを押します。

7

十字ボタンの上下を押して画像サイズを選び、決定ボタンを押します。

8

リサイズした新たな画像の名前が表示されますので確認したら決定ボタンを押します。

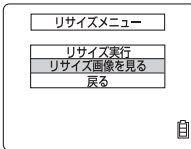
9 **作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。**

リサイズした画像の確認と消去のしかた

リサイズした画像は通常の再生では確認できません。次の手順で表示させてください。

「リサイズのしかた」の3から

4

リサイズメニュー
リサイズ実行
リサイズ画像を見る
戻る

十字ボタンの上下を押して[リサイズ画像を見る]を選び、決定ボタンを押します。

リサイズした画像が表示されます。

● 十字ボタンの左右を押して画像の順送り、逆送りができます。

5

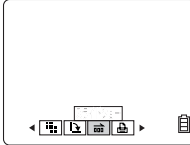
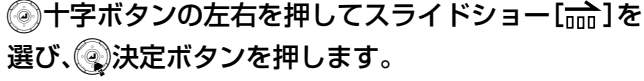
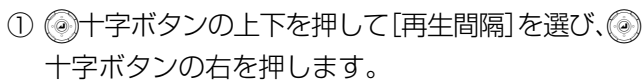
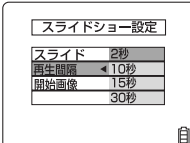
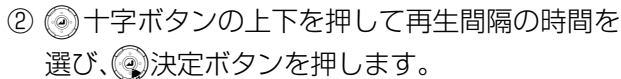
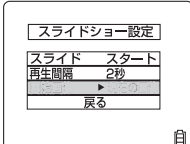
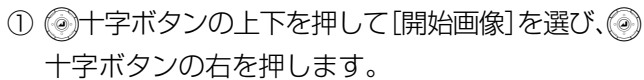
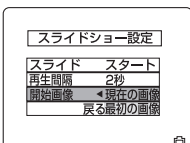
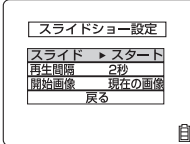
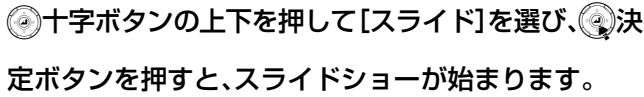
消去する場合は十字ボタンの上下を押して[ ]を選び、決定ボタンを押します。

● 決定ボタンを押すと画像の消去は完了しますので、ご注意ください。

6 **作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。**

● リサイズした画像はプロテクトできません。

[回転] 画像を回転させる

画像を右90°または左90°に回転させます。

回転のしかた－[90°⤵]に回転させる場合

1 電源をONにしてモード切替レバーを“▶”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して回転[]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの左右を押して回転させたい画像を選びます。

5 十字ボタンの上下を押して[90°⤵]を選び、決定ボタンを押します。

[⤺90°] 左に90°回転します。
[90°⤵] 右に90°回転します。
[戻る] 作業を中止してメニューアイコンの画面に戻ります。

回転した画像が表示されます。

●続けて作業をするときは、4と5の操作を繰り返します。

6 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

[スライドショー]画像を自動で次々に表示させる

画像を一定間隔で撮影した順に表示させます。

設定のしかた

1　電源をONにしてモード切替レバーを“▶”に合わせます。

2　メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3

十字ボタンの左右を押してスライドショー[　]を選び、決定ボタンを押します。

4　[再生間隔]を設定します。

①　十字ボタンの上下を押して[再生間隔]を選び、十字ボタンの右を押します。

②　十字ボタンの上下を押して再生間隔の時間を選び、決定ボタンを押します。

5　[開始画像]を設定します。

①　十字ボタンの上下を押して[開始画像]を選び、十字ボタンの右を押します。

②　十字ボタンの上下を押して[現在の画像]または[最初の画像]を選び、決定ボタンを押します。

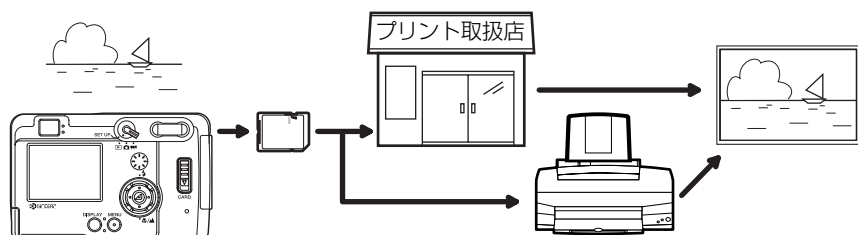
6

十字ボタンの上下を押して[スライド]を選び、決定ボタンを押すと、スライドショーが始まります。

7　スライドショーを終わらせるときは、決定ボタンを押します。

● 十字ボタン、メニューボタンを押しても終了できます。

[プリント設定] DPOFでプリントの設定をする

DPOFとは、デジタルカメラで撮影した画像を家庭用プリンタやプリント取扱店でプリントするための規格です。
プリントする枚数の指定や日付の印字指定などの簡単な設定ができます。ご使用のプリンタ、プリント取扱店がDPOFサービスに対応しているかご確認ください。この機能については、お使いのDPOF対応プリンタの取扱説明書も合わせてお読みになってください。

設定のしかた

1 電源をONにしてモード切替レバーを"▶"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

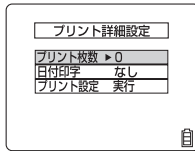
3 十字ボタンの左右を押してプリント[]を選び、決定ボタンを押します。

プリント

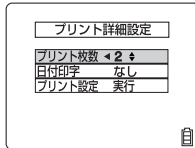
4 十字ボタンの上下を押して[プリント]を選び、十字ボタンの右を押します。

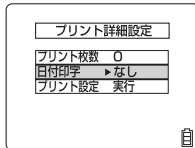
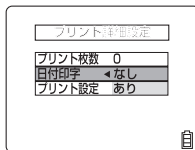
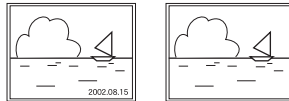
プリント設定
プリント ▶画像選択
INDEX 設定
全解除 実行
戻る

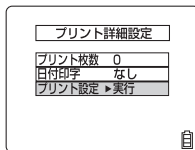
5 十字ボタンの左右を押してプリントの設定をしたい画像を選び、十字ボタンの上を押して[決定]を選び、決定ボタンを押します。

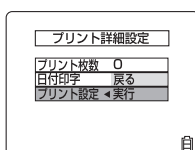
プリント画像選択
決定
戻る

6 [プリント枚数]を設定します。

① 十字ボタンの上下を押して[プリント枚数]を選び、

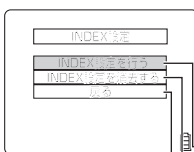
十字ボタンの右を押します。

② 十字ボタンの上下を押して枚数を決め、決定ボタンを押します。

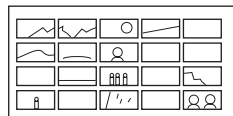
7 [日付印字]を設定します。

① 十字ボタンの上下を押して[日付印字]を選び、十字ボタンの右を押します。

② 十字ボタンの上下を押して[あり]または[なし]を選び、決定ボタンを押します。

8

十字ボタンの上下を押して[プリント設定]を選び、十字ボタンの右を押します。

9

十字ボタンの上下を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、DPOF設定は完了です。

● [戻る]は前に設定した内容のまま[プリント設定]の画面に戻ります。

[プリント設定]の画面に戻ります。

●他の画像のDPOF設定を続ける場合は、4〜9の操作を繰り返します。

インデックスプリントの設定

メモリーカードに記録されている画像の一覧をプリントします。

「DPOFの設定のしかた」の3から

4

十字ボタンの上下を押して[INDEX]を選び、十字ボタンの右を押します。

5

十字ボタンの上下を押して[INDEX設定を行う]を選び、決定ボタンを押すと、設定完了です。

インデックスプリントがプリントされます。
インデックスプリントはプリントされません。
作業を中止して[プリント設定]の画面に戻ります。

[プリント設定]の画面に戻ります。

プリント設定を全て解除する

「DPOFの設定のしかた」の3から

4

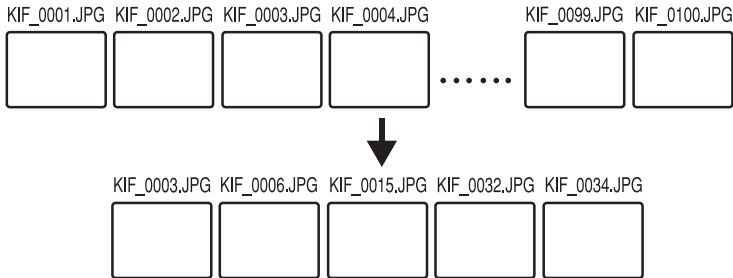
十字ボタンの上下を押して[全解除]を選び、十字ボタンの右を押します。

5

十字ボタンの上下を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、設定完了です。

[プリント設定]の画面が表示されます。

☆プロテクトと全消去を使った便利な画像の消しかた

例えば、画像が100枚記録されていて、そのうちの5、6枚の画像を残しておきたいとき、[消去]で1枚づつ消していくのは大変な作業です。このように画像がたくさん記録されていてその中の数枚だけ残したいという場合は、[プロテクト]と[全消去]を使うと操作の手間が少なくて便利です。

まず、残しておきたい画像をプロテクトします。(画面はマルチ再生)

1 メニューアイコンを表示させてプロテクト[O-π]を選びます。

2

十字ボタンの左右で残しておきたい画像にカーソルをあわせて[実行]を選んで決定ボタンを押すと、画像がプロテクトされます。以後、この作業を繰り返して残しておきたい画像をプロテクトします。

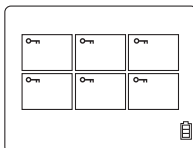
次に、全消去します。

1

メニューアイコンを表示させて全消去[]を選び、決定ボタンを押すと、[全消去しますか?]の画面に変わります。

2 [実行]を選んで、決定ボタンを押すと、全消去は完了です。

3

プロテクトされている画像が残ります。

“SET UP”セットアップモードの機能と使いかた

日付の設定やメモリーカードのフォーマットなど、使う頻度は少ないけど、あると便利で大切な機能がこのモードに集められています。

[液晶の明るさ] モニターの明るさを変える

液晶モニターの明るさを調します。

設定のしかた

1 電源をONにして モード切替レバーを“SET UP”に合わせます。

2 [液晶の明るさ]を選び、 十字ボタンの右を押します。

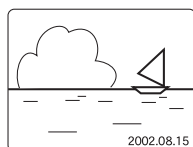
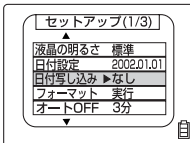
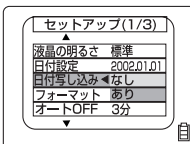
セットアップ(1/3)
液晶の明るさ ▶標準
日付設定 2002.01.01
日付写し込み なし
フォーマット 実行
オートOFF 3分

3

十字ボタンの上下を押して明るさを選び、 決定ボタンを押したら、設定完了です。
＋を選ぶと明るく、−を選ぶと暗くなります。

[日付写し込み] 画像データに日付を書き込む設定をする

画像に日付を写し込む場合はこちらで設定します。設定後に撮影した画像から日付が写し込まれます。

[あり]　撮影すると画像に日付が書き込まれます。
[なし]（初期設定）日付は書き込みません。

日付は画像の右下に書き込まれます。
● 一度書き込むと、消去はできません。

設定のしかた－[あり]に設定する場合

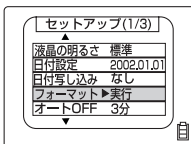
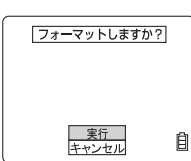
1 電源をONにしてモード切替レバーを“SET UP”に合わせます。

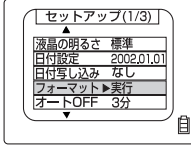
2 十字ボタンの上下を押して[日付写し込み]を選び、十字ボタンの右を押します。

セットアップ(1/3)
液晶の明るさ　標準
日付設定　2002.01.01
日付写し込み ▶なし
フォーマット　実行
オートOFF　3分

3 十字ボタンの上下を押して[あり]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

セットアップ(1/3)
液晶の明るさ　標準
日付設定　2002.01.01
日付写し込み ◀なし
フォーマット　あり
オートOFF　3分

●[あり]に設定すると、撮影するときの液晶モニターに日付が常時表示されます。

SET UP

[フォーマット] メモリーカードを初期化する

新しいメモリーカードを使う前や画像を含む全てのデータを消してしまいたいときにお使いください。

フォーマットのしかた

1 電源をONにしてモード切替レバーを“SET UP”に合わせます。

2

セットアップ(1/3)	
液晶の明るさ	標準
日付設定	2002.01.01
日付写し込み	なし
フォーマット▶	実行
オートOFF	3分

十字ボタンの上下を押して[フォーマット]を選び、十字ボタンの右を押します。

3

フォーマットしますか？
実行
キャンセル

十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、フォーマットを始めます。

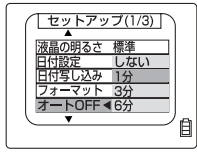
4

セットアップ(1/3)	
液晶の明るさ	標準
日付設定	2002.01.01
日付写し込み	なし
フォーマット▶	実行
オートOFF	3分

フォーマットが完了すると[セットアップ(1/3)]の画面に戻ります。

●プロテクトした画像や他社製のデジタルカメラで撮った画像も消えますのでご注意ください。

[オートOFF] 電源を自動でOFFにして節電する

このカメラは、電源の切り忘れを防いで電池の消費を少なくするため、電源をONにしたままにしておくと数分後に電源が自動でOFFになる**オートOFF機能**が付いています。ここでは電源がOFFになるまでの時間が設定できます。

[しない]　電源はOFFになりません。切り忘れにご注意ください。
[1分]
[3分]（初期設定）　1分後、3分後、6分後に電源がOFFになります。
[6分]

設定のしかた－[1分] に設定する場合

1　電源をONにして モード切替レバーを“SET UP”に合わせます。

2　十字ボタンの上下を押して[オートOFF]を選び、十字ボタンの右を押します。

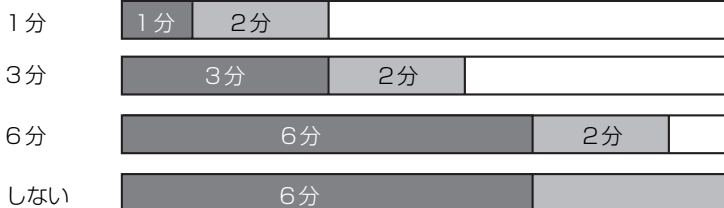
セットアップ(1/3)
液晶の明るさ　標準
日付設定　2002.01.01
日付写し込み　なし
フォーマット　実行
オートOFF ▶3分

3　十字ボタンの上下を押して[1分]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

セットアップ(1/3)
液晶の明るさ　標準
日付設定　しない
日付写し込み　1分
フォーマット　3分
オートOFF ◀6分

〈“📷”撮影モードでお使いのときのご注意〉

“📷”撮影モードでお使いのとき、“オートOFF”で設定した時間（または“しない”）により、カメラは次のように作動します。

1. [オートOFF] を [1分]、[3分] または [6分] に設定したとき
   カメラに何もしないで、設定時間以上放置すると、カメラは2分間、休止の状態になります。
   この間シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻りますが、この2分を越えると電源がOFFになります。
2. [オートOFF] を [しない] に設定したとき
   カメラに何もしないで6分を超えて放置すると、カメラは休止の状態になります。
   このとき電源はOFFにならず、休止の状態が続きます。シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻ります。

■：電源ONで撮影モードになっていて、カメラに何もしないで放置している状態
■：休止の状態。カメラは、レンズが出た状態で止まっているが、シャッターボタンの半押しや他のボタンを押すことで撮影できる状態に戻る。
□：電源OFFの状態。

SET UP

[モードロック] 設定した機能を残しておく

“ ”モード、“ ”モード、“ ”モード、“SET UP”モードで設定した内容を電源をOFFにしたときも残しておくことをモードロックといいます。(95ページ参照)

[ON]　　電源をOFFにしても設定した内容を残しておきます。
[OFF](初期設定)　　電源をOFFにすると初期設定に戻ります。

設定のしかた－[ON]に設定する場合

1　電源をONにしてモード切替レバーを“SET UP”に合わせます。

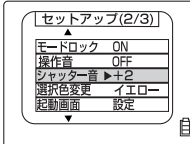
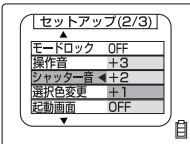
2　十字ボタンの上下を押して[モードロック]を選び、十字ボタンの右を押します。

セットアップ(2/3)
モードロック▶OFF
操作音　+2
シャッター音　+2
選択色変更　イエロー
起動画面　設定

3　十字ボタンの上下を押して[ON]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

セットアップ(2/3)
モードロック◀OFF
操作音　ON
シャッター音　+2
選択色変更　イエロー
起動画面　設定

[操作音] ボタンを押したときの音量を調節する

[+3]　　音量大
[+2]　　中(初期設定)
[+1]　　小
[OFF]　　操作音をOFFにします。

設定のしかた－[OFF]に設定する場合

1　電源をONにしてモード切替レバーを“SET UP”に合わせます。

2　十字ボタンの上下を押して[操作音]を選び、十字ボタンの右を押します。

3　十字ボタンの上下を押して[OFF]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

SET UP

[シャッター音] シャッター音の音量を調節する

[+3]　音量大
[+2]　中(初期設定)
[+1]　小
[OFF]　操作音をOFFにします。

設定のしかた−[+1]に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを"SET UP"に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[シャッター音]を選び、十字ボタンの右を押します。

セットアップ(2/3)	
モードロック	ON
操作音	OFF
シャッター音	▶+2
選択色変更	イエロー
起動画面	設定

3 十字ボタンの上下を押して[+1]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

セットアップ(2/3)	
モードロック	OFF
操作音	+3
シャッター音	◀+2
選択色変更	+1
起動画面	OFF

[選択色変更] メニューの色を選ぶ

イエロー(初期設定)
レッド
パープル
ブルー

設定のしかた−[レッド]に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを"SET UP"に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[選択色変更]を選び、十字ボタンの右を押します。

セットアップ(2/3)	
モードロック	OFF
操作音	+2
シャッター音	+2
選択色変更	▶イエロー
起動画面	設定

3 十字ボタンの上下を押して[レッド]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

セットアップ(2/3)	
モードロック	OFF
操作音	イエロー
シャッター音	レッド
選択色変更	◀パープル
起動画面	ブルー

SET UP

[起動画面] 起動画面を選ぶ

次の3種類の画面が選べます。

京セラロゴの画面	（初期設定）
ユーザー設定画面	メモリーカードに保存されている画像から1枚を選んで設定できます。
OFF画面	ブルーバック

設定のしかた

1 電源をONにしてモード切替レバーを"SET UP"に合わせます。

2

十字ボタンの上下を押して[起動画面]を選び、十字ボタンの右を押します。

3

十字ボタンの左右を押してご希望の画面を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

画像を起動画面に設定する

1 「設定のしかた」の3で中央の画面を選び、十字ボタンの下を押します。

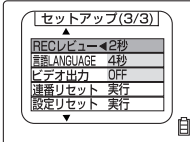
2

十字ボタンの左右を押して画像を選び、決定ボタンを押すと、選んだ画像が上段に表示されます。

3

十字ボタンの上下を押して[設定]を選び、決定ボタンを押します。

4

十字ボタンの左右を押して中央の画像を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

● 設定した画像はカメラ内のメモリーに保存されますので、メモリーカードを変えたり、画像を消去しても画面が変わることはありません。

SET UP

[RECレビュー] 撮影直後に画像を確認する

撮影直後、撮った画像を数秒間、表示させることができます。

OFF	撮影後の画像表示はありません。
2秒（初期設定）	撮影後、画像を2秒間表示します。
4秒	撮影後、画像を4秒間表示します。

設定のしかた－[2秒] に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを "SET UP" に合わせます。

2

十字ボタンの上下を押して[RECレビュー]を選び、十字ボタンの右を押します。

3

十字ボタンの上下を押して[2秒]を選び、決定ボタンを押すと、設定完了です。

[言語選択] メニューに表示する言語を選ぶ

日本語
ENGLISH (英語)／FRANCAIS (フランス語)／
DEUTSCH (ドイツ語)／ESPAÑOL (スペイン語)

設定のしかた－[ENGLISH] に設定する場合

1 電源をONにして モード切替レバーを "SET UP" に合わせます。

2

十字ボタンの上下を押して[言語LANGUAGE]を選び、十字ボタンの右を押します。

3

十字ボタンの上下を押して[ENGLISH]を選び、決定ボタンを押したら 、設定完了です。

SET UP

[ビデオ出力] テレビのビデオ出力方式を選ぶ

テレビのビデオ出力方式は、NTSC（エヌティーエスシー）方式とPAL（パル）方式の 2 種類が選べます。テレビの送受信方式は国によって違いますので、旅先でカメラをテレビにつなぐときは、その国の出力方式を設定してください。

●日本国内ではNTSCです。

設定のしかた – [PAL] に設定する場合

1　電源をONにして モード切替レバーを “SET UP” に合わせます。

2

セットアップ(3/3)
▲
RECレビュー	2秒
言語LANGUAGE	ENGLISH
ビデオ出力 ▶	NTSC
連番リセット	実行
設定リセット	実行
▼

十字ボタンの上下を押して [ビデオ出力] を選び、十字ボタンの右を押します。

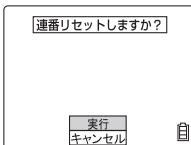
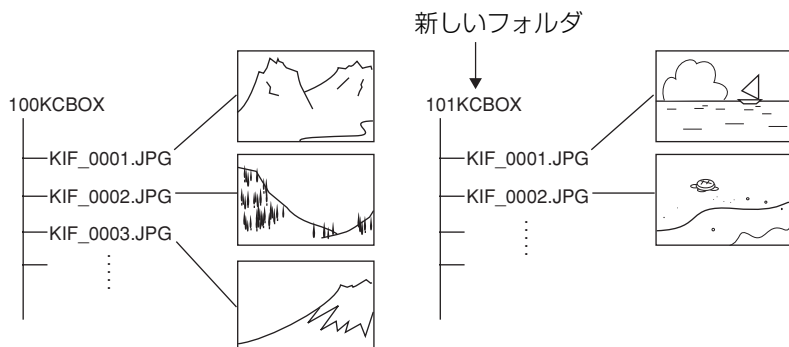
3

セットアップ(3/3)
▲
RECレビュー	2秒
言語LANGUAGE	日本語
ビデオ出力 ◀	NTSC
連番リセット	PAL
設定リセット	実行
▼

十字ボタンの上下を押して [PAL] を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

[連番リセット] 画像データの名前を0001 から始める

このカメラでは撮影した順に連続した番号がファイル名に付けられ、それらは「100KCBOX」というフォルダにまとめられています。

この連番リセットを実行すると、メモリーカードに新たなフォルダが作られ、画像のファイル名も新たに0001から連番が付けられます。

撮影シーン毎にフォルダを変えたいときなどにお使いください。

連番リセットのしかた

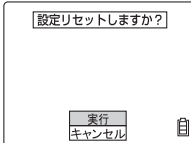
1 電源をONにして モード切替レバーを"SET UP"に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[連番リセット]を選び、十字ボタンの右を押します。

セットアップ(3/3)	
RECレビュー	2秒
言語LANGUAGE	日本語
ビデオ出力	NTSC
連番リセット▶	実行
設定リセット	実行

3 十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

連番リセットしますか？

実行
キャンセル

[設定リセット] 設定した機能を初期設定に戻す

設定したモードやメニューを初期設定に戻したいときは、このモードをお使いください。

設定リセットのしかた

1 電源をONにして モード切替レバーを"SET UP"に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[設定リセット]を選び、十字ボタンの右を押します。

セットアップ(3/3)	
RECレビュー	2秒
言語LANGUAGE	日本語
ビデオ出力	NTSC
連番リセット	実行
設定リセット▶	実行

3 十字ボタンの上下を押して[実行]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

設定リセットしますか？

実行
キャンセル

各メニューの初期設定は、95ページをご覧ください。

SET UP

その他の操作

画像をパソコンに保存したりプリントしたり…

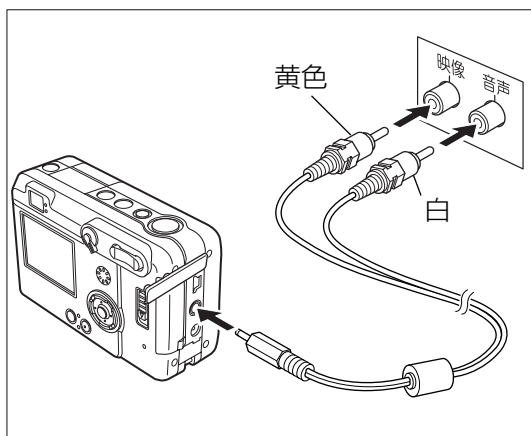
テレビにつないで画像を確認する

旅先やご自宅のテレビで撮影した画像を見ることができます。

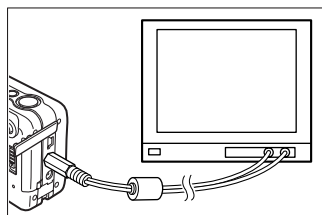
まず、“SET UP”モードの[ビデオ出力]をご確認ください。→82ページ

- 日本国内ではNTSCです。
  PALに設定すると、画面が流れたり、ゆがんだり、写らなくなることがあります。

接続する

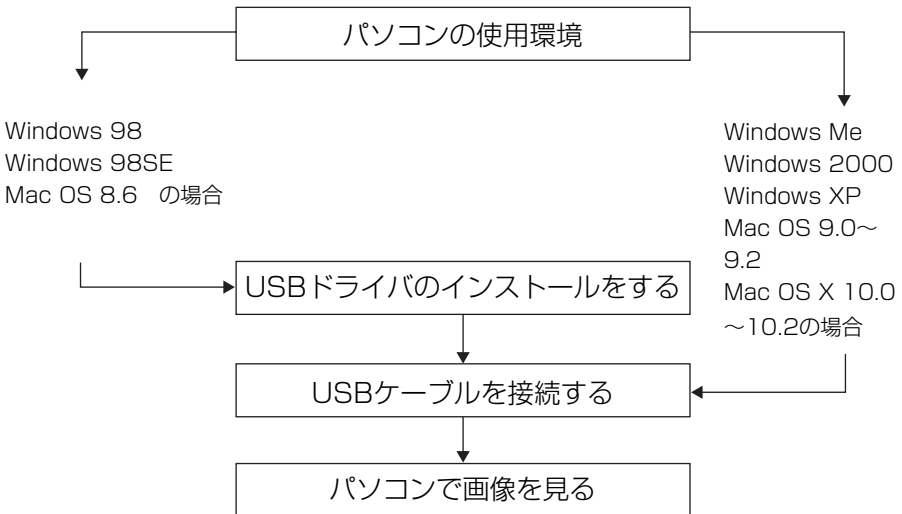
1

付属のビデオケーブルでカメラとテレビをつなぎます。

- カメラとテレビの電源は、OFFにしてから接続してください。
- 長時間お使いになるときは、ACアダプターをカメラにつないでお使いください。

2

テレビとカメラの電源をONにして、カメラのモード切替レバーを“▶”にすると、テレビに画像が現れます。

この状態で、撮影や再生、SET UPの機能がお使いいただけます。

パソコンにつなぐ

デジタルカメラFinecam S5およびFinecam S3L(以下、カメラ)で撮影した画像を、お使いのパソコンで見たり、コピーして加工したり、Eメールで送ることができます。
まずはお使いのパソコンのOSをご確認いただき、OSに合わせて本章をお読みください。

パソコンの使用環境

●USB端子が標準で装備されていること。(カメラとつなぐときに必要です。)
●CD-ROMドライブが装備されていること。(インストール時に必要です。)

Windowsでは

●Windows 98、Windows 98SE、Windows ME、Windows 2000 Professional、Windows XP、Home EditionおよびProfessionalがプレインストールされていること。

Macintoshでは

●Mac OS 8.6～9.2およびOS X 10.0～10.2(OS Xサーバーを除く)がプレインストールされていること。

※ 上記のOSでもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

USBドライバをインストールする

Windows 98、Windows 98SE、Mac OS 8.6の場合は、このUSBドライバのインストールが必要です。USBドライバはカメラに付属しているCD-ROMに収録されています。

USBケーブルは、USBドライバのインストールが完了してから接続してください。先にUSBケーブルを接続するとUSBドライバが正しくインストールできません。接続してしまった場合は90ページの「アンインストールと対処法」をご覧ください。

付属のCD-ROMには次のソフトウエアが含まれます。

●USBドライバ

Windows 98、Windows 98SEをお使いの場合

1 パソコンの電源を入れてパソコンを起動します。
2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
3 [マイコンピュータ]から[CD_41]のフォルダをダブルクリックして開いてください。
4 [JPN]、[Disk1]のフォルダを順次ダブルクリックして開き、[SETUP.exe]のファイルをダブルクリックすると、インストールが始まります。ガイドに従ってインストールを行ってください。
5 「Install Shieldウイザードの完了」のメッセージが表示されたら、「完了」をクリックし、ウイザードを終了してください。その後パソコンを再起動してください。

⚠ ご注意

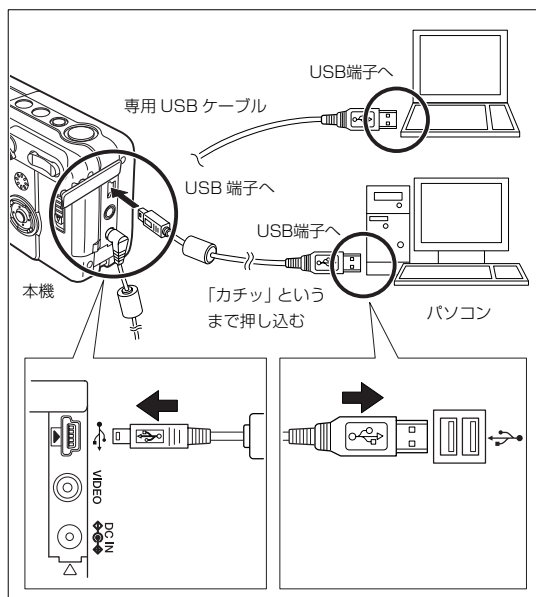
インストールに失敗した場合は、90ページの「アンインストールと対処法」の手順に従ってアンインストールし、再度インストールを行ってください。

Mac OS 8.6をお使いの場合

1 パソコンの電源を入れてパソコンを起動します。
2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
3 画面に現れるCDドライブのアイコンをダブルクリックしてウインドウを開いてください。
4 [DRIVER]のフォルダをダブルクリックしてウインドウを開いてください。

5 [UD0103(J)]のフォルダをダブルクリックしてウインドウを開き、下記のファイルを「システムフォルダ」の「機能拡張」にコピーしてください。
●UD0103-USB Storage Driver
●UD0103-USB Storage Shim
6 コピー完了後、パソコンを再起動してインストール完了です。

USBケーブルをパソコンに接続する

Windows Me、Windows 2000、Windows XP、Mac OS 9.0〜9.2、Mac OS X 10.0〜10.2はUSBドライバのインストールが不要なのでこちらから始めてください。
専用のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続します。

ご注意
USBジャックの大きさをご確認ください。カメラ側のUSBジャックは小さい方、パソコン側は大きい方です。

カメラの電源をONにすると液晶画面に[PCモード]の表示が現れ、パソコンで作業することができます。
●このときセルフタイマーLEDが点灯します。

※ パソコンにつないで画像を見たり、画像をコピーしているときは、カードアクセスLEDが点滅します。このときUSBケーブルを抜いたり、パソコンの電源を切らないでください。

《USBケーブルの取り外しについて》

パソコンからUSBケーブルを取り外すときは以下の方法で取り外してください。

Windows Meをお使いのかたへ

1 デスクトップの右下にある「タスクバー」の[ハードウエアの取り外し]アイコンをダブルクリックします。
2 [USBディスク]を選択して[停止]をクリックします。
3 [USBディスク]を選択して[OK]をクリックします。
4 メッセージが表示されるので[OK]をクリックします
5 USBケーブルをパソコンとカメラから取り外します。

Windows 2000をお使いのかたへ

1 デスクトップ右下にある「タスクバー」の[ハードウエアの取り外し]アイコンをダブルクリックします。
2 [USB大容量記憶装置デバイス]を選択して[停止]をクリックします。
3 [USB大容量記憶装置デバイス]を選択して[OK]をクリックします。
4 [安全に取りはずすことができます]とメッセージが表示されるので[OK]をクリックします。
5 USBケーブルをパソコンとカメラから取り外します。

Windows 98、Windows 98SE、Windows XPをお使いのかたへ

カメラの電源を切りそのままUSBケーブルを取り外してください。

Mac OSをお使いの方へ

デスクトップ上の[名称未設定]のフォルダをドラッグしてゴミ箱に入れてください。[安全に取り外すことができます]のメッセージが表示されているか、「名称未設定」のアイコンがディスプレイ上から消えていることを確認してからUSBケーブルを取り外してください。

パソコンで画像を見る

Windowsをお使いの場合

ご確認ください

● パソコンに画像を見るためのソフトウェアがインストールされていること。(動画の再生にはQuickTime4.1以上のインストールが必要です。)

● カメラにメモリーカードが挿入されていること。

《操作》

1 カメラにメモリーカードを挿入してください。
2 カメラをACアダプターに接続し、カメラの電源を入れてください。

3 パソコンとカメラを付属のUSBケーブルで接続してください。
（カメラの液晶画面に［PCモード］が現れます。）
4 ［マイコンピュータ］に［新しいリムーバブルディスク］のアイコンが表示されます。ダブルクリックしてウインドウを開いてください。
● 「PCモード」が表示されていても、パソコン上に［リムーバブルディスク］や［名称未設定］が表示されない場合には、ケーブルが確実に接続されているかご確認ください。
5 DCIM内の［XXXKCBOX］もしくは［RESIZE］フォルダを開き、見たい画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックしてください。

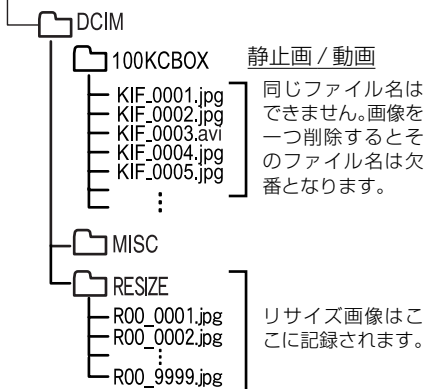
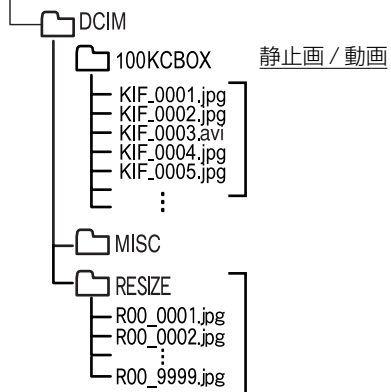
Macintoshをお使いの場合

ご確認ください

●パソコンに画像を見るためのソフトウェアがインストールされていること。（動画の再生にはQuickTime4.1以上のインストールが必要です。）

●カメラにメモリーカードが挿入されていること。

《操作》

1 カメラにメモリーカードを挿入してください。
2 カメラをACアダプターに接続し、カメラの電源を入れてください。
3 パソコンとカメラを付属のUSBケーブルで接続してください。
（カメラの液晶画面に［PCモード］が現れます。）
4 デスクトップに［名称未設定］のアイコンが表示されます。ダブルクリックしてウインドウを開いてください。
5 DCIM内の［XXXKCBOX］もしくは［RESIZE］フォルダを開き、見たい画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックしてください。

パソコンとの通信

パソコンがサスペンド･レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

ご注意

- 画像に加工を加える場合は（たとえばサイズを変更したり回転する場合）、加工前にパソコンにコピーをとり、オリジナルの画像ファイルに加工を加えないようご注意下さい。
  メモリーカードのデータに直接加工を加えると、カメラで画像を見ることができなくなります。
- パソコンからメモリーカードをフォーマットしないでください。カメラで使用できなくなるおそれがあります。
- メモリーカードの画像データを削除または PC 上に直接移動しないでください。メモリーカードの画像データの消去はカメラから行ってください。

アンインストールと対処法

ドライバのアンインストール

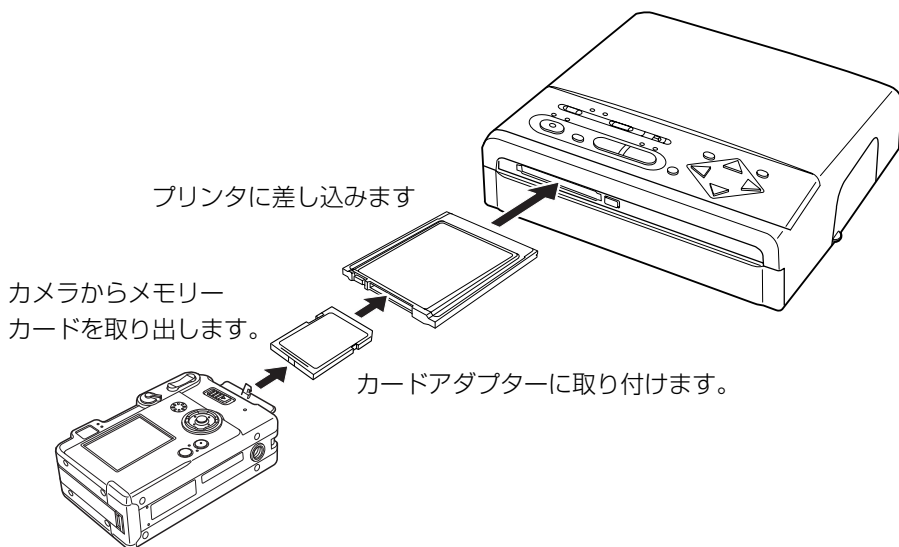
ドライバソフトが正常にインストールされていないと、パソコンがカメラを認識できません。その場合は、次の手順に従って一度ドライバをアンインストールしてください。その後、86ページに記載されている手順に従って、再度ドライバをインストールしてください。

Windows 98、Windows 98SEをお使いの場合

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。
2 付属のUSBケーブルで、カメラのUSB端子とパソコンのUSB端子をつなぎます。
3 カメラにメモリーカードを挿入し、ACアダプターをつないでカメラの電源をONにします。
4 パソコンの[デバイスマネージャ]を開きます。
  ① [マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選びます。
  ② システムのプロパティが表示されたら、[デバイスマネージャ]のタブをクリックします。
5 [その他のデバイス]を選択し、“?”マークのついた[? Kyocera Finecam S5]か、[? Kyocera Finecam S3L]の[削除]をクリックします。
6 デバイス削除の確認画面が出たら、[OK]をクリックします。
7 カメラの電源をOFFにしてからUSBケーブルを取り外し、パソコンを再起動をして、作業完了です。

プリンタにつないでデジタルプリントする

DPOF設定(→70ページ)で設定した内容で画像をプリントアウトすることができます。

● DPOF対応のプリンタのみご利用になられます。
　操作についての詳細は、お使いのDPOF対応プリンタの取扱説明書をご覧ください。
● 日付の印字設定をDPOFで設定しても、プリンタの機種によっては印字されない場合があります。

付録

トラブルシューティング

故障とお考えになる前に ...

現象	原因	対策
液晶モニターに何もでてこない。	電池切れか、リチウムイオンバッテリーパックが入っていません。	リチウムイオンバッテリーパックをカメラに入れて充電してください。
	オート OFF 機能で電源が OFF になりました。(→ 76 ページ)	再度“POWER”パワーボタンを押して ON にしてください。
液晶モニターが消えている。	カメラに何もしないでしばらく放置すると、カメラが休止の状態になります。	シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻ります。“オート OFF”で設定した内容によって異なりますので、詳しくは 77 ページをご覧ください。
	カメラにビデオケーブルがつながっています。	ビデオケーブルをはずします。
	液晶モニターが OFF になっています。	“DISPLAY”ボタンを押して液晶モニターを ON にします。
	テレビもしくはカメラの近くに磁石等、磁気を発生するものがあります。	カメラを磁気を発生するものから遠ざけてください。
撮影したのに撮影可能枚数が変わらない。	撮影した画像の容量が少なかったためです。	画質モードや被写体の状態によるものなので、問題ありません。
再生画面にノイズがあり見づらい。	カメラとテレビが正しく接続されていません。	カメラとテレビを正しく接続してください。
テレビに映らない。	ビデオ出力方式がテレビと合っていません。	ビデオ出力方式をテレビと合わせてください。(→ 82 ページ)

現象	原因	対策
画像が消去できない。 “🔑”点灯	画像がプロテクトされています。	プロテクトを解除してください。（→ 64 ページ）
画像が消去できない。	他の機器で記録したデータが入っています。	このカメラでは消去できません。「フォーマット」を利用すると消去できますが、全画像が消去されます。（→ 76 ページ）
画像を消去したのに撮影可能枚数が増えない。	消去した画像の容量が少なかったためです。	画質モードや被写体の状態によるものなので、問題ありません。
充電ができない。	リチウムイオンバッテリーパックが入っていません。	リチウムイオンバッテリーパックをカメラに入れてください。
	リチウムイオンバッテリーパックの＋－の向きが逆になっています。	リチウムイオンバッテリーパックを正しく入れ直してください。
	AC アダプターが正しくつながっていません。	カメラやコンセントにしっかりと差し直してください。
充電ができない。または、中断してしまう。 警告 LED 遅い点滅	周囲の温度が高すぎるまたは低すぎるため、充電保護回路が働いて充電を停止しました。	周囲の温度が＋ 10℃～ 30℃の範囲で充電してください。（＋ 5℃～ 40℃でも充電可能ですが、充電時間が多少遅くなります。）
カメラが熱くなる。	液晶モニター使用時は大量に電流が流れるため長時間使用すると熱くなります。	故障ではありませんが、しばらく休止してからお使いください。
警告 LED 遅い点滅	ストロボの充電中です。	一旦シャッターボタンから指を離してお待ちください。
警告 LED 速い点滅	カメラぶれ警告です。シャッタースピードが遅くなります。	三脚などでカメラを固定して撮影してください。
ピントが合わない。 スタンバイ LED 点滅、合焦マーク点滅	ピントが合いにくい被写体を撮影しています。（→ 57 ページ）	フォーカスロックを使って被写体のコントラストの強いところにピントを合わせてから、構図を決めて撮影してください。（→ 57 ページ）
真っ白な画像ばかり撮れてしまう。	露出オーバーです。	長時間露光を OFF にするか、設定リセットを実行してください。
画像の回転、DPOF 設定、プロテクトができない。	SD メモリーカードのライトプロテクトがロック（書込禁止）されています。	SD メモリーカードのロックを解除してください。（→ 21 ページ）

メッセージとその対策

メッセージ	原因	対策
“カードが一杯です”	メモリーカードの記録容量が不足しています。	新しいメモリーカードを入れるか、不要な画像を消去してください。または、画素数や画質を変えると撮影できる場合があります。
“カードがありません”	メモリーカードが入っていません。	カメラにメモリーカードを入れてください。
“ライトプロテクト”	SD メモリーカードのライトプロテクトスイッチがロック（書込禁止）されています。	SD メモリーカードのロックを解除するか（→ 21 ページ）、他のメモリーカードをご使用ください。
“カードエラーです”	他の機種でフォーマットされたメモリーカードを使っています。	カメラでメモリーカードのフォーマットをしてください。（→ 76 ページ）
	このカメラで取り扱いできないフォーマット形式のメモリーカードです。	別のメモリーカードを入れるか、フォーマットをしてください。
	カードが正しく装着されていません。	メモリーカードを装着し直してください。
	メモリーカードに何も記録されていません。	撮影済みのメモリーカードを入れてください。
“画像がありません”	メモリーカードが入っていません。	カメラにメモリーカードを入れてください。
“⚠ ϟ 閉じています”	ストロボが閉じています。	ストロボを指で押さえつけていないか確認してください。

モードロックされるメニューと初期設定の一覧表

モード	メニュー	モードロック	初期設定
"カメラ" カメラモード "動画" 動画モード	カメラ ストロボモード	ロック可	AUTO
	カメラ/動画 マクロ／遠景モード	ロック可	通常撮影
	カメラ/動画 セルフタイマー	初期設定	OFF
	カメラ 画素数（S5）	前回設定保持	2560x1920
	カメラ 〃（S3L）	前回設定保持	2048x1536
	動画 〃	前回設定保持	320x240
	動画 音声モード	前回設定保持	あり
	カメラ 画質	前回設定保持	ノーマル
	カメラ/動画 露出補正	ロック可	±0.0
	カメラ/動画 ホワイトバランス	ロック可	AUTO
	カメラ/動画 詳細→カラーモード	初期設定	カラー
	カメラ 詳細→彩度	前回設定保持	標準
	カメラ 詳細→シャープネス	前回設定保持	標準
	カメラ/動画 詳細→WB プリセット	前回設定保持	前回設定保持
	カメラ 詳細→AE モード	前回設定保持	プログラム
	カメラ/動画 詳細→フォーカス	前回設定保持	スポット AF
	カメラ 詳細→長時間露光	初期設定	OFF
	カメラ 詳細→ISO 感度（S5）	前回設定保持	AUTO
	カメラ 〃（S3L）	前回設定保持	AUTO
	カメラ 詳細→測光モード	前回設定保持	評価測光
	カメラ 詳細→電子ズーム	前回設定保持	ON
"SETUP" セットアップモード	液晶の明るさ	前回設定保持	標準
	日付設定	前回設定保持	前回設定保持
	日付写し込み	前回設定保持	なし
	フォーマット	－	－
	オート OFF	前回設定保持	3分
	モードロック	初期設定	OFF
	操作音量	前回設定保持	+2
	シャッター音	前回設定保持	+2
	選択色変更	前回設定保持	イエロー
	起動画面	前回設定保持	初期設定
	REC レビュー	前回設定保持	2秒
	言語	前回設定保持	前回設定保持
	ビデオ出力	前回設定保持	前回設定保持
	連番リセット	－	－
	設定リセット	－	－

ロック可：　モードロックを ON にしたときのみ電源を OFF にしても設定を保持します。
初期設定：　モードロックのON/OFFに関係なく電源をOFFにすると初期設定に戻します。
前回設定保持：モードロックの ON/OFF に関係なく電源を OFF しても設定を保持します。

主な仕様

S5： Finecam S5
S3L：Finecam S3L

本体

型式： 記録再生消去一体型デジタルスチルカメラ
記録媒体： SDメモリーカード、マルチメディアカード
撮影枚数の目安と記録画素数：（SDメモリーカード16MB使用、同モードのみで撮影した場合）

2560×1920（S5のみ）	約4～6枚（ファイン）	約8～12枚（ノーマル）
2048×1536（S3Lのみ）	約6～9枚（ファイン）	約12～18枚（ノーマル）
1600×1200	約10～15枚（ファイン）	約20～29枚（ノーマル）
1280×960	約16～23枚（ファイン）	約30～43枚（ノーマル）
640×480	約54～73枚（ファイン）	約88～112枚（ノーマル）
動画320×240	約1～2枚（30秒で1枚）	
動画160×120	約1～2枚（120秒で1枚）	

フォーマット： JPEG準拠（Exif ver2.2）、DCF準拠（Design rule for Camera File system）対応、DPOF対応
（注）DCFとは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを、関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として規定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格『Design rule for Camera File system』の略称です。
有効画素数： S5：500万画素、S3L：322万画素
撮影素子： 1/1.8インチ正方画素インターレース読み出し方式CCD
S5： 総画素数525万画素、CCD感度 ISO100相当
S3L：総画素数334万画素、CCD感度 ISO120相当
レンズ： f=7.3mm～21.9mm（35mmフィルム換算、約35mm～105mm相当）3倍ズームレンズ、F2.8～4.8
撮影距離範囲： CCD前面より 約60cm*1～∞
マクロ撮影時 約17cm*1～60cm*2（ズーム全域）
露出制御／測光方式：CCD画面多分割評価測光、中央重点、スポット測光
制御方式： プログラムAE、絞り優先AE、長時間露出
露出補正： ＋2.0EV～－2.0EV（1/3ステップ）
絞り： 固定（F2.8、F9.6*）、自動 *：明るさ換算F値
測光連動範囲： LV6～LV16
ホワイトバランス：自動、手動（プリセット、太陽光、白熱電球、曇天、蛍光灯）
シャッター： CCD電子シャッター、絞り羽根独立プログラム電子シャッター併用方式（1秒～1/2000秒、2秒、4秒、8秒）
焦点調整： ビデオフィードバック方式オートフォーカス、マニュアルフォーカス
ファインダー： 実像式ズームファインダー
視野率：80%以上（3m）
倍率：約0.3倍（ワイド時)～約0.8倍（テレ時）
ストロボ： 内蔵式、充電時間約8秒（フル充電時、常温、当社測定基準による）、撮影範囲 約60cm*2～2.5m（ワイド時）

*1： レンズ前面から約12cm
*2： レンズ前面から約55cm

撮影モード：　ストロボモード（自動発光／赤目軽減自動発光／強制発光／発光禁止／夜景ポートレート／*赤目軽減強制発光）、マクロ撮影モード、遠景撮影モード、カラーモード（カラー／白黒／セピア）、彩度、シャープネス、ホワイトバランス（オート／太陽光／白熱電球／曇天／蛍光灯／プリセット）、AEモード（プログラム／F2.8／F9.6）、フォーカス（ワイドAF／スポットAF／MF）、長時間露出（OFF／2秒／4秒／8秒）、感度（AUTO／ISO100(S5)／ISO120(S3L)／ISO200／ISO400）、測光モード（評価測光／中央重点／スポット）、電子ズームのON／OFF切り替え

*"長時間露出"のとき設定可能

動画モード：　マクロ撮影モード、遠景撮影モード、カラーモード（カラー／白黒／セピア）、ホワイトバランス（オート／太陽光／白熱電球／曇天／蛍光灯／プリセット）、AEモード（プログラム／F2.8／F9.6）、フォーカス（ワイドAF／スポットAF／MF）、音声録音の有無

再生モード：（通常再生）　マルチ再生、アフレコ、プロテクト、消去（1画像単位）、全消去（フォルダー"DCIM"内の全画像*）、回転（左右90度）、スライドショー、DPOF設定、リサイズ

*但し、他社製のデジタルカメラで撮影した画像（フォルダー含む）は消去されません。

SET UP（セットアップ）モード：明暗調整、日付の設定、日付写し込み、フォーマットの実行、オートパワーOFFの時間選択または有無（電源OFFになるまでの時間）、モードロックの有無（撮影モードで設定した機能のロック）、操作音とシャッター音の音量調整、選択色の変更（パープル、レッド、イエロー、ブルー）、起動画面の選択と設定、RECレビューのON／OFF切り替え、言語の選択（日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）、ビデオ出力方式の選択（NTSCまたはPAL）、連番リセットの実行、設定リセットの実行

液晶モニター：　内蔵式、1.6型8.5万画素TFTカラー液晶モニター、モニター画素数354×240

表示部

液晶モニター表示：電池残量、撮影モードと動画モードの設定状況（セルフタイマーモード／ストロボモード／マクロ・遠景／ホワイトバランスモード／AEモード／フォーカス／長時間露出／感度／測光モード／音声モード／彩度／シャープネス）、撮影可能枚数、動画撮影可能秒数、電子ズーム（S5：×1.3／×1.6／×2.0／×3.0／×4.0、S3L：×1.3／×1.6／×2.0）、日付（電源ON後3秒間のみ表示）、フォーカスフレーム、SDメモリーカードのライトプロテクト状態（カードがライトプロテクトされているときのみ表示）、記録画像（静止画／動画）、再生モード時の設定（マルチ再生／アフレコ／プロテクト／消去／全消去／回転／スライドショー／DPOF設定／リサイズ）、SETUP（セットアップ）モード時（日付設定／フォーマット／オートOFF／モードロック／操作音／シャッター音／選択色変更／起動画面／RECレビュー／言語LANGUAGE／ビデオ出力／連番リセット／設定リセット）

セルフタイマーLED（赤）：セルフタイマー動作、撮影完了、パソコン接続中

カードアクセスLED（橙）：画像記録処理中、警告処理中、カードアクセス中

スタンバイLED（緑）：合焦表示、リチウムイオンバッテリー充電完了表示

警告LED（赤）：　ストロボ充電中、カメラぶれ警告、リチウムイオンバッテリーの充電中と異常

入出力装置

入出力端子：	ビデオ出力端子（φ3.5ミニジャック）、外部電源入力端子、USB端子
ビデオ出力：	NTSC/PALコンポジットビデオ信号切替方式

電池

電源：	3.6Vリチウムイオンバッテリーパック、専用ACアダプターにて使用可能
充電時間：	約5時間（フル充電、+10℃〜+30℃）
電池寿命：	S5：　撮影画像枚数（ストロボ50%使用、2560×1920ノーマル時）
	液晶モニターON時　約160画像
	液晶モニターOFF時　約200画像
	S3L：撮影画像枚数（ストロボ50%使用、2048×1536ノーマル時）
	液晶モニターON時　約160画像
	液晶モニターOFF時　約200画像
	連続再生時間　約180分（液晶モニター使用）
	（いずれもフル充電時、常温、付属のバッテリーパックBP-1000S使用、当社測定基準による）

その他

動作温度：	0℃〜45℃
寸法：	92（幅）×57.5（高さ）×33（奥行き）mm（突起部含まず）
質量：	約165g（メモリーカード、バッテリー別）

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

索引

英数

あ行

か行

さ行

付録

た行

な行

は行

ま行

ら行